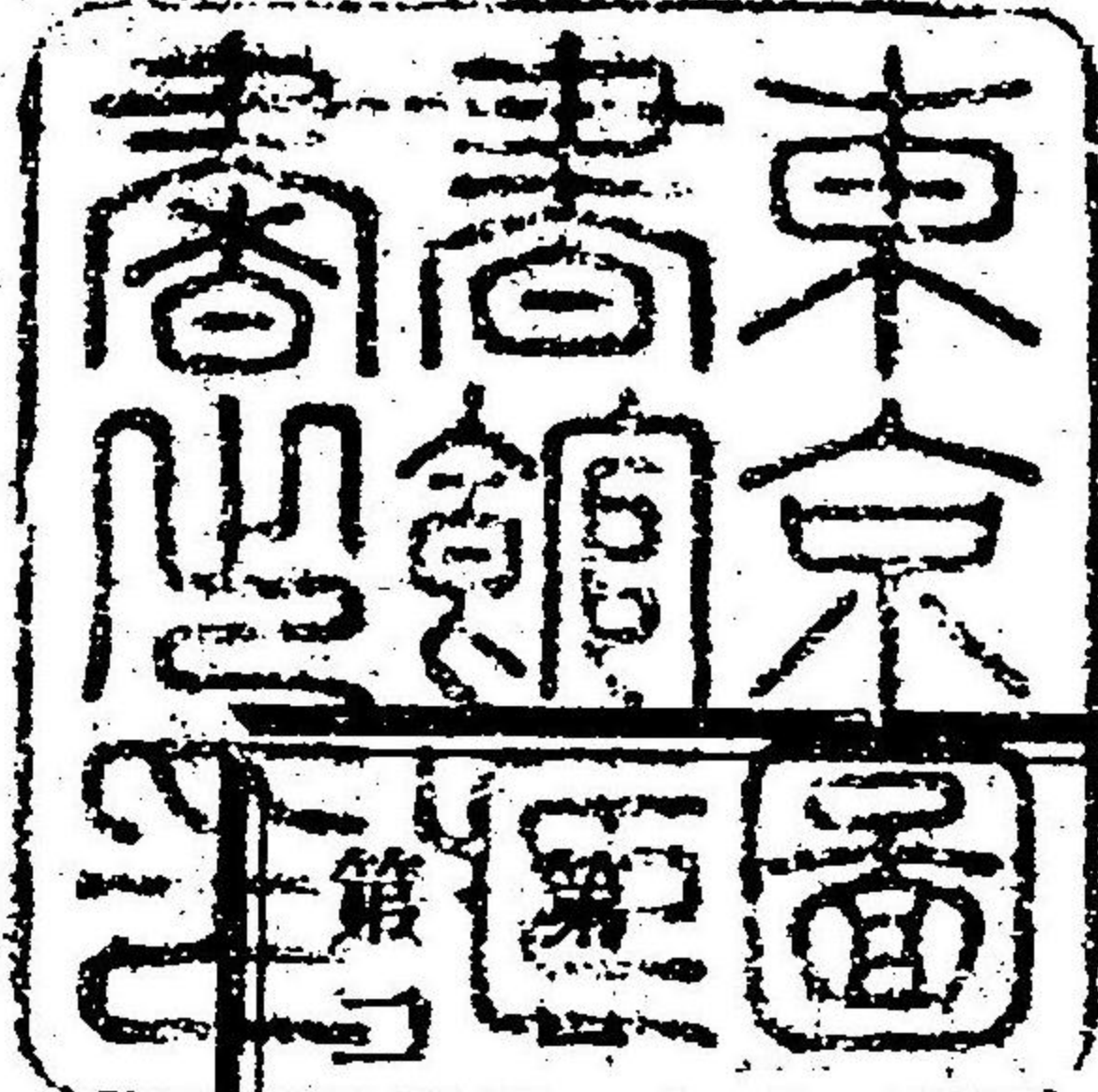


東京大學醫學部一覽

明治三十四年

正誤

- 五丁九行ノ理メセムハ理セムノ誤
- 六丁十行ノ雇ッテハ雇フテノ誤
- 十二丁五行ノ何トアレハ何トナレハノ誤
- 十四丁一行ノ就學ハ就學ノ誤
- 十四丁四行ノ費スルハ費スニノ誤
- 二十一丁五行ノ書札ハ書冊ノ誤
- 二十三丁十三行ノスイエルハマイエルノ誤
- 二十七丁十行ノ用ニハ用用ノ誤
- 三十一丁八行ノ網膜ハ網膜ノ誤
- 三十三丁六行ノ間々ハ間々ノ誤
- 三十九丁七行ノ生植ハ生植ノ誤
- 五十三丁一行ノ給ハ級ノ誤



特 30
864

東京大學醫學部一覽

目次

東京大學醫學部全圖

同 區分圖

其一 本部

其二 解剖學教場

其三 製藥學教場

其四 別課醫學教場

其五 寄宿舎

其六 醫院

其七 附屬病院

章 學 曆

章 沿革 零 誌

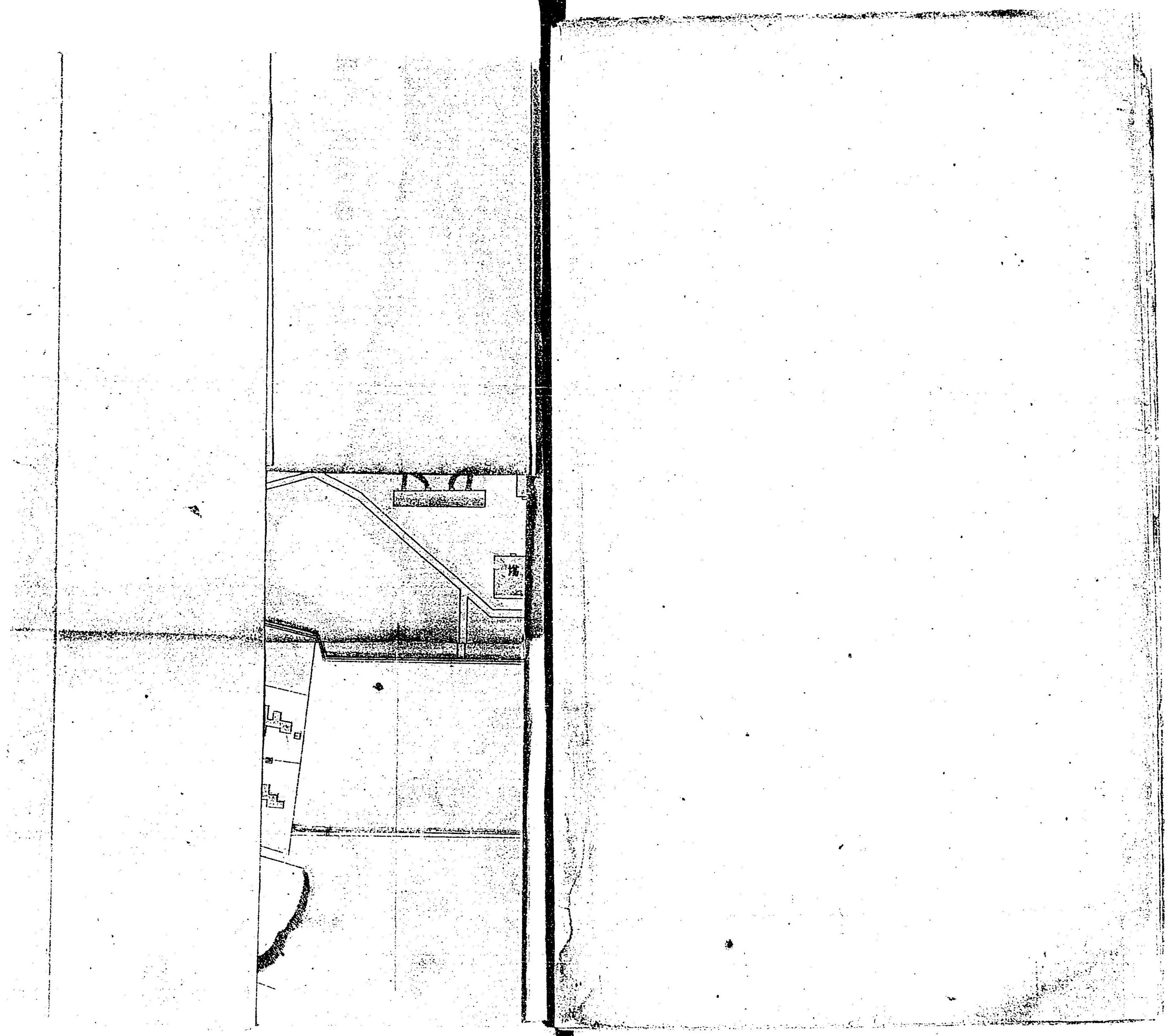
K. Kōfumi

六十三丁八行ノ籍屬ハ籍族ノ誤
 九十八丁八行ノ休日ノ間ニ業ノ字ヲ脱ス
 百二十八丁十行ノ辯ハ辦ノ誤
 二百五十九丁四行ノ用達等監督ヲスハ用達等
 ナ監督スノ誤
 二百五十九丁十行ノ該記ハ詳記ノ誤
 二百八十四丁七行ノ氷片ノ下ニノノ字ヲ脱ス

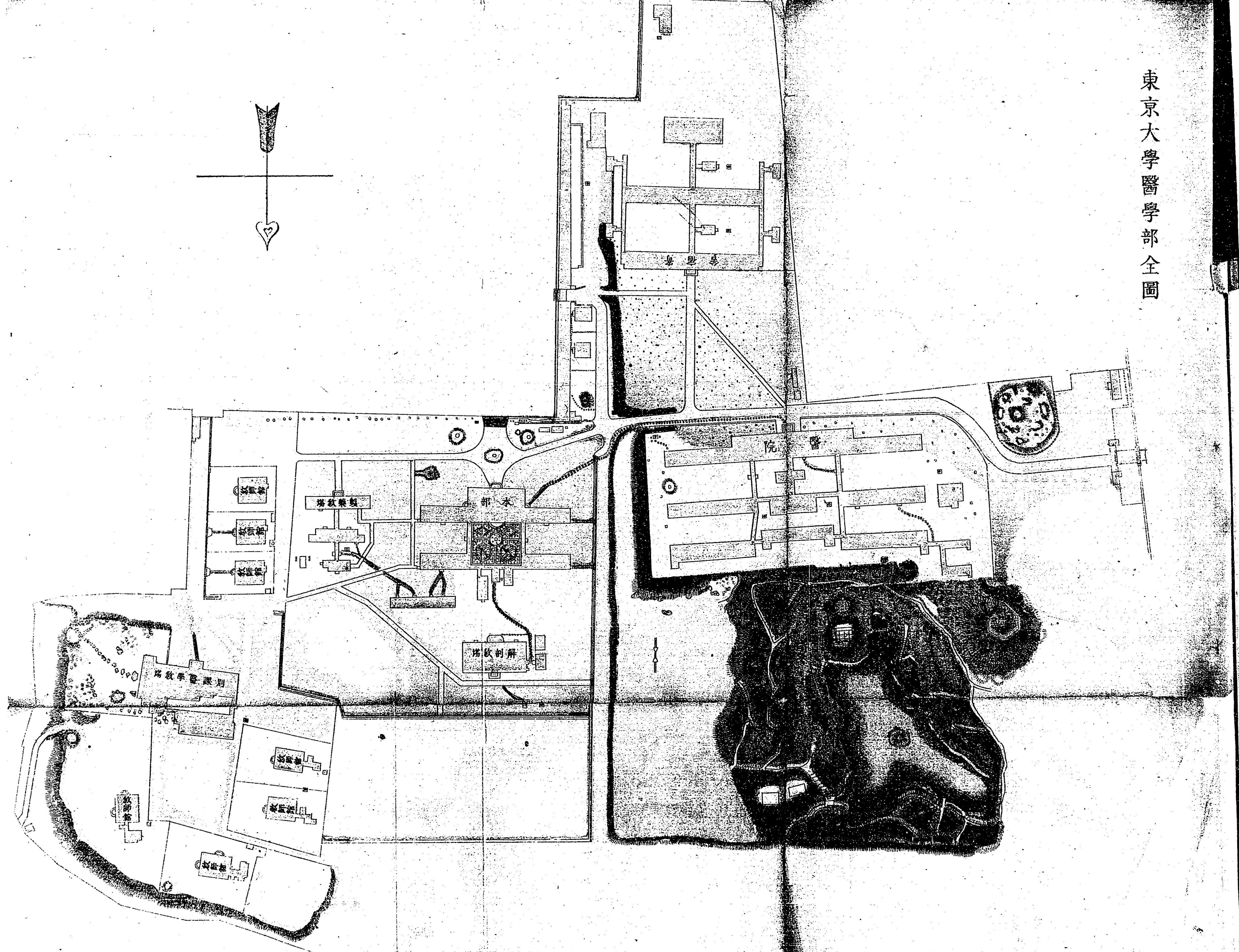
第三章	教旨
第四章	學科課程
第五章	教科要目
第六章	學年及學期
第七章	休業期日
第八章	入學
第九章	試業及學級進退
第十章	學業證書
第十一章	學位記
第十二章	教室及實驗場
第十三章	圖書
第十四章	器械藥品模型標品等
第十五章	生徒費用

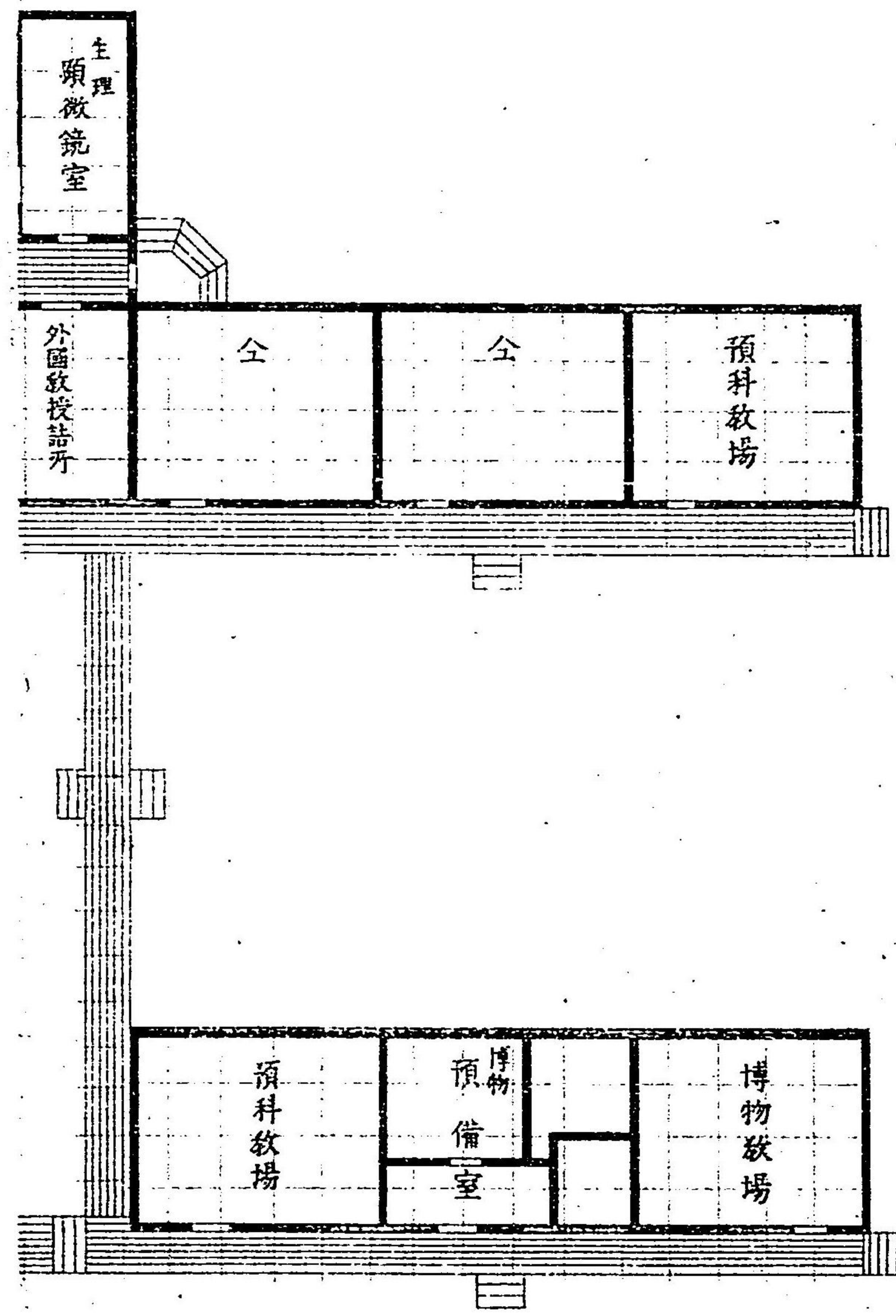
第十六章	生徒心得
第十七章	寄宿舍規則
第十八章	綜理教員等姓名
第十九章	生徒姓名
第二十章	卒業生徒姓名
第廿一章	學士姓名
第廿二章	海外留學生姓名
第廿三章	醫院規則
第廿四章	附屬病院規則

諸規則中本一覽編纂以後改正シタルモノハ即チ其改正ノ分ヲ記入シ印刷ニ付ス

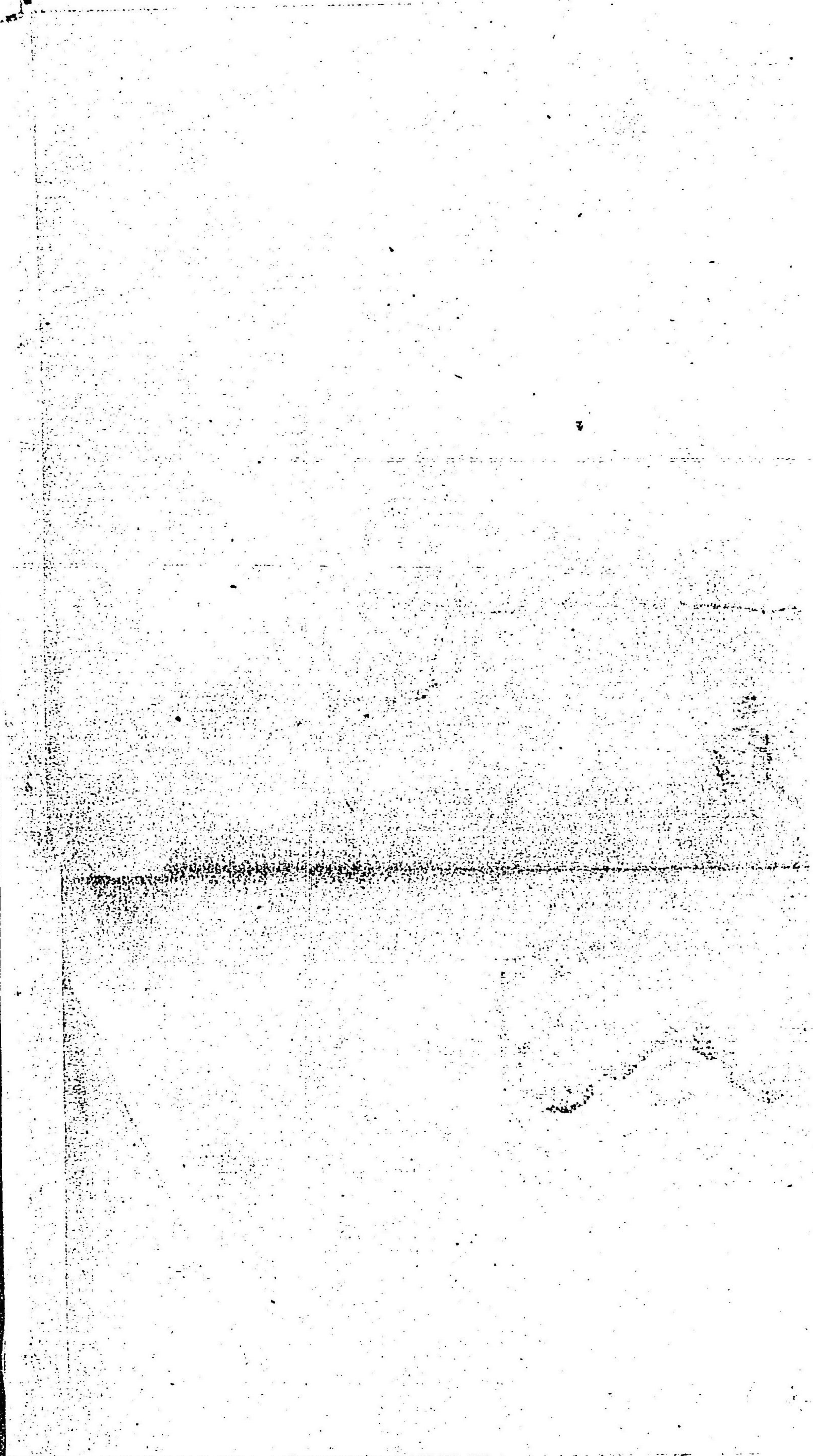


東京大學醫學部全圖



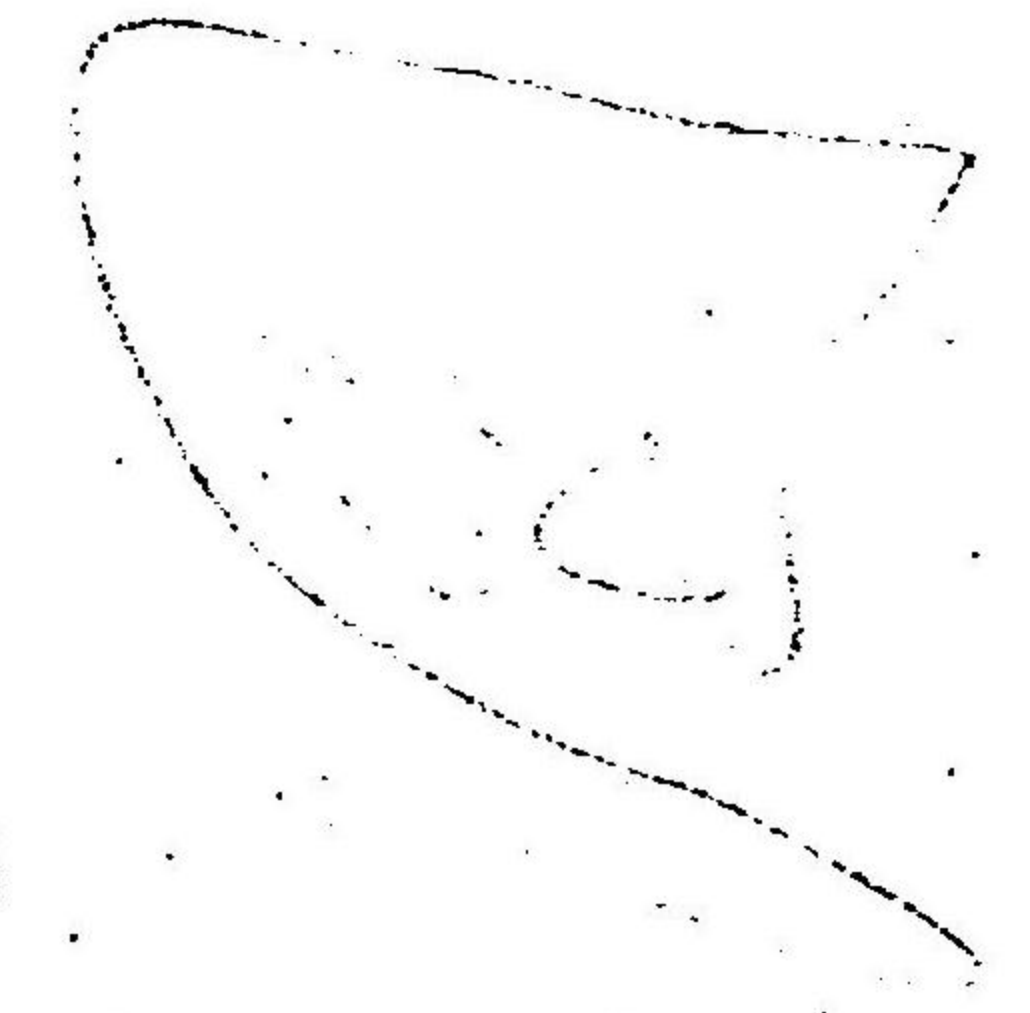
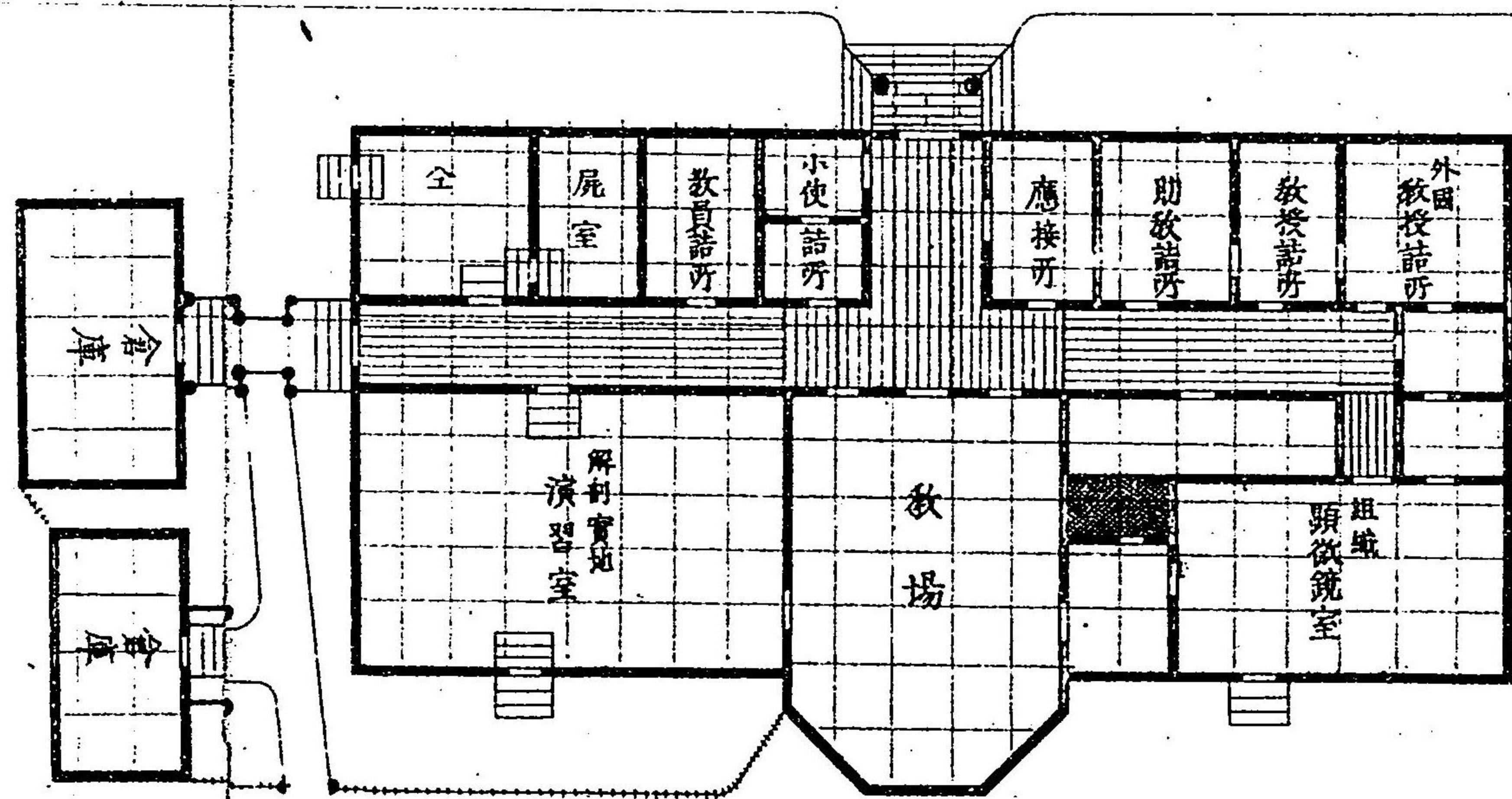
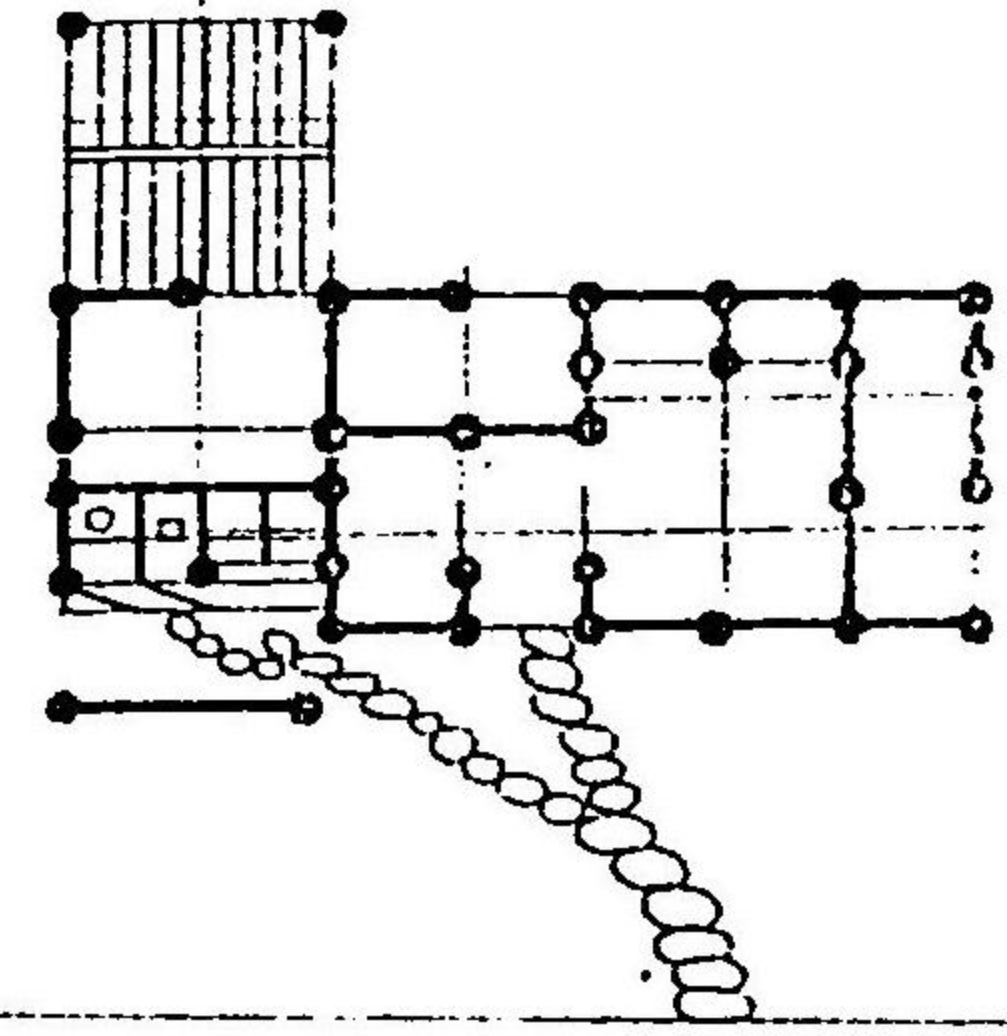


其一

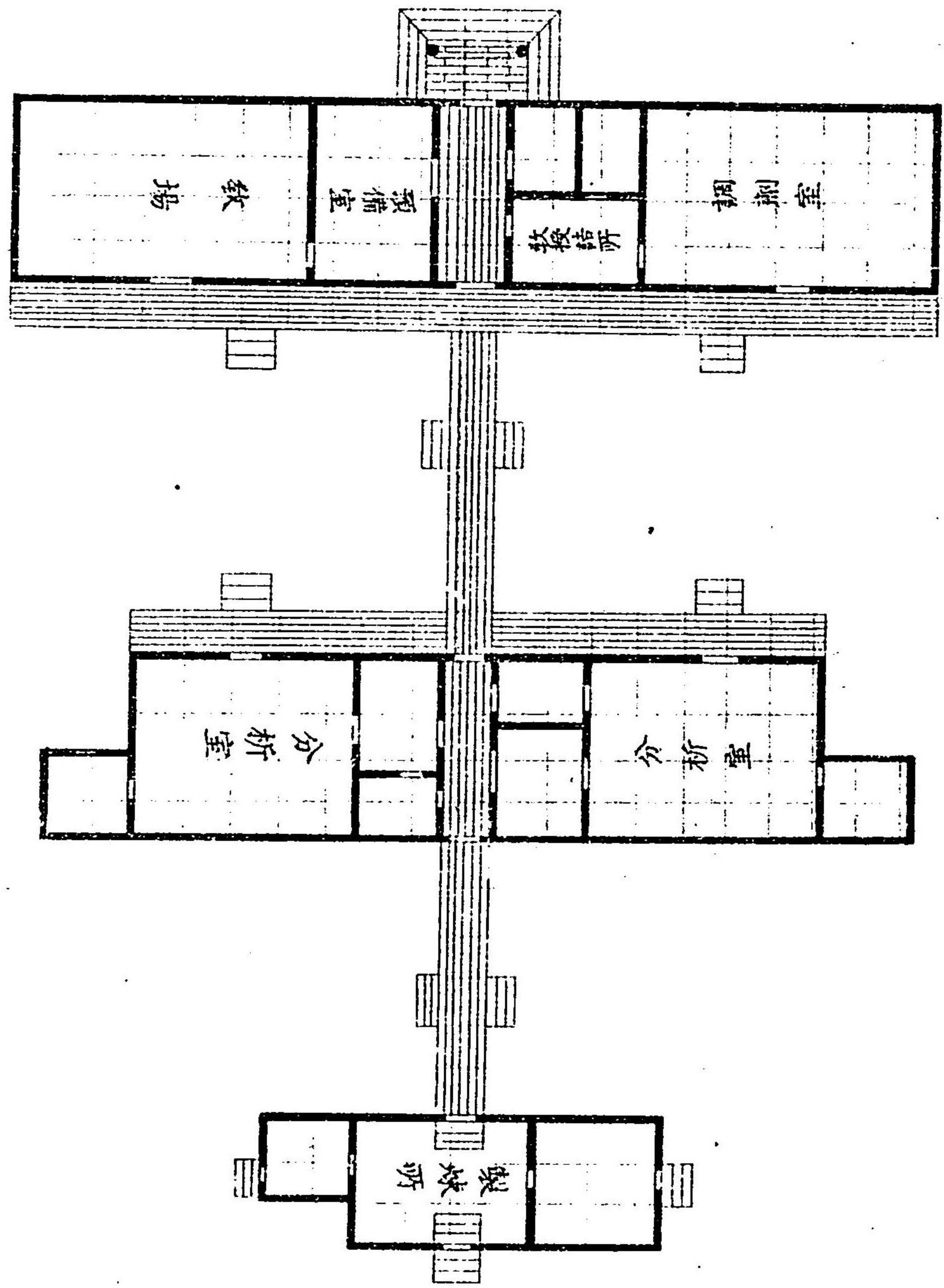


其二

解剖學教場

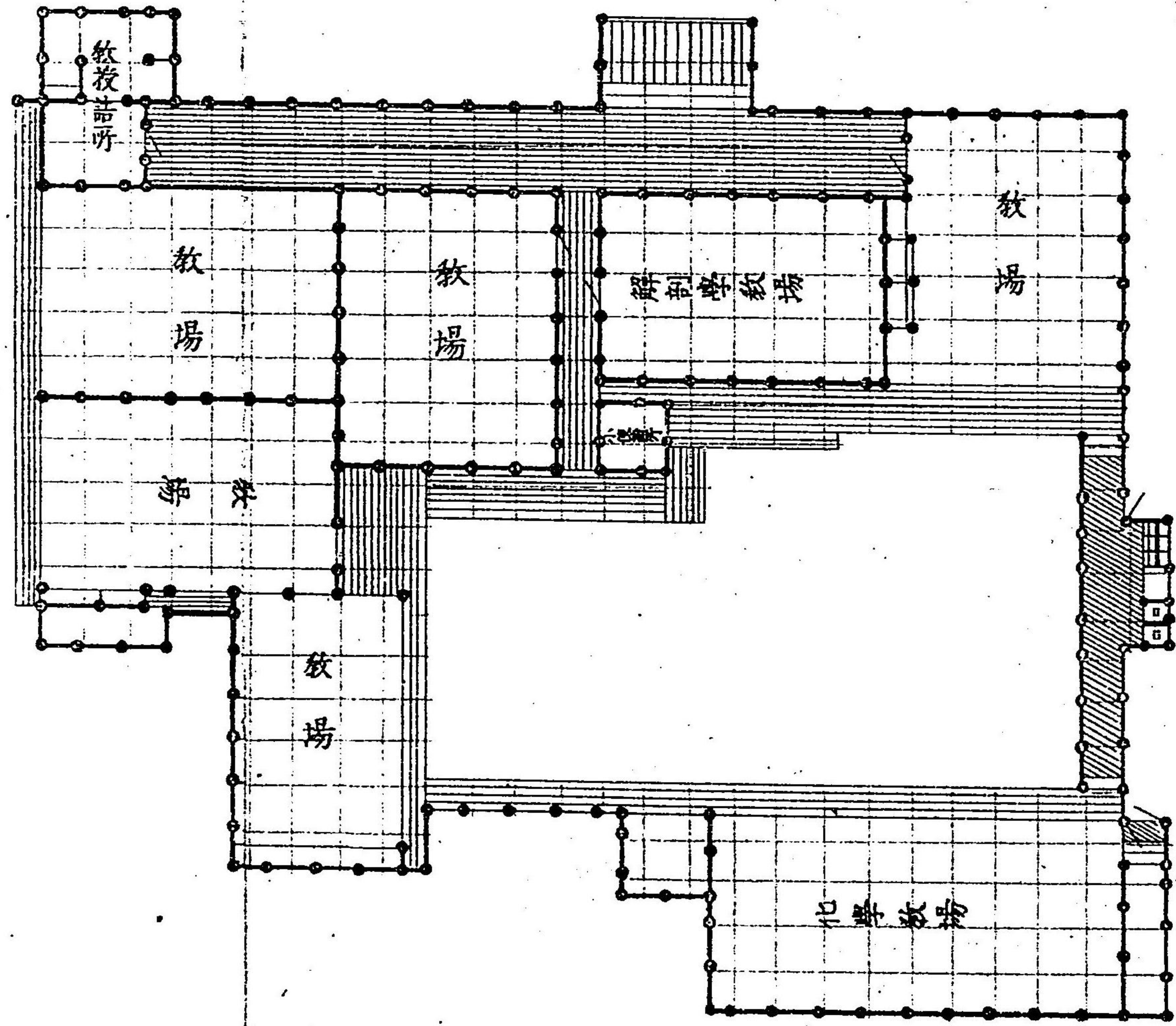


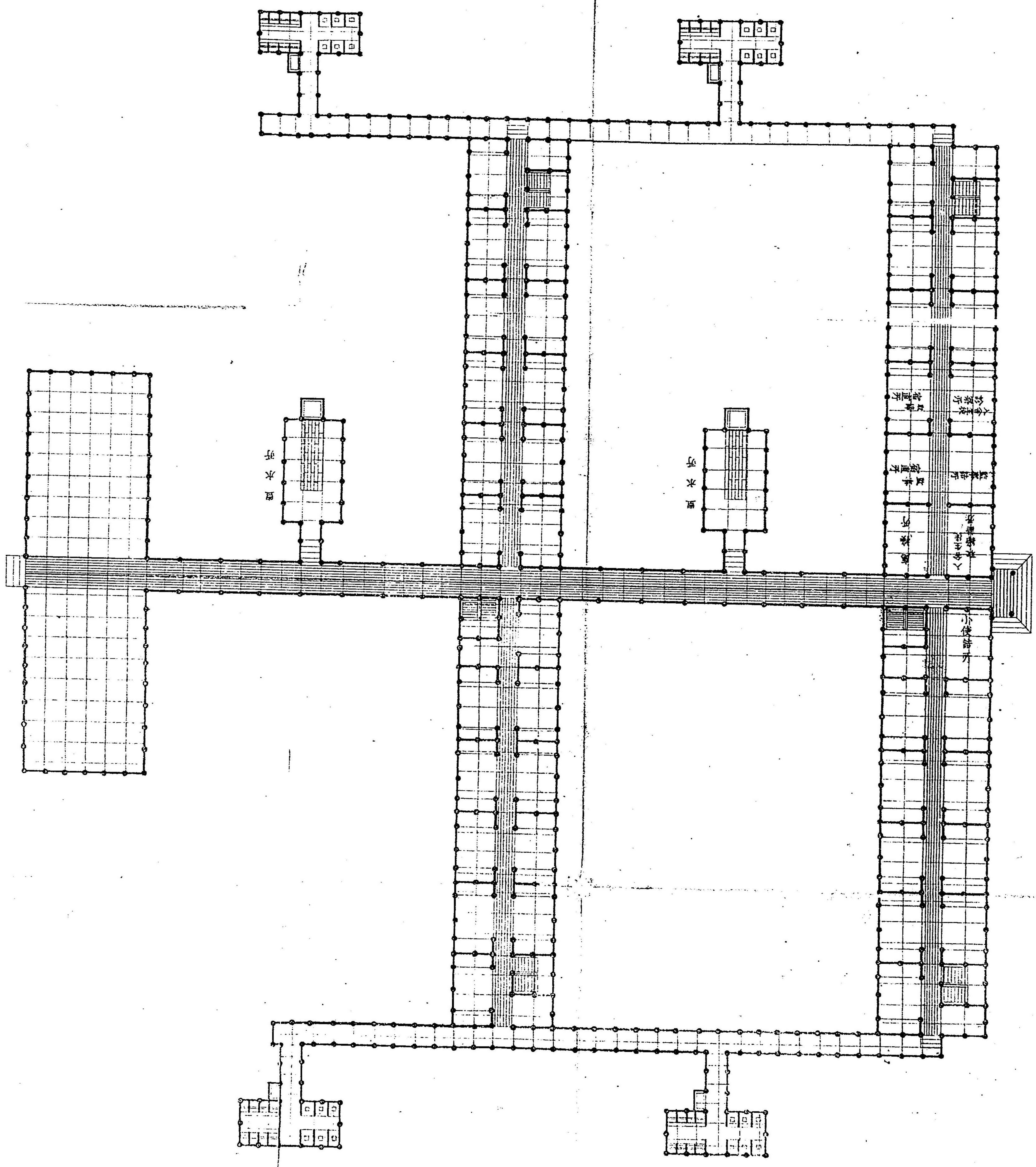
其三
製藥學教場



其四

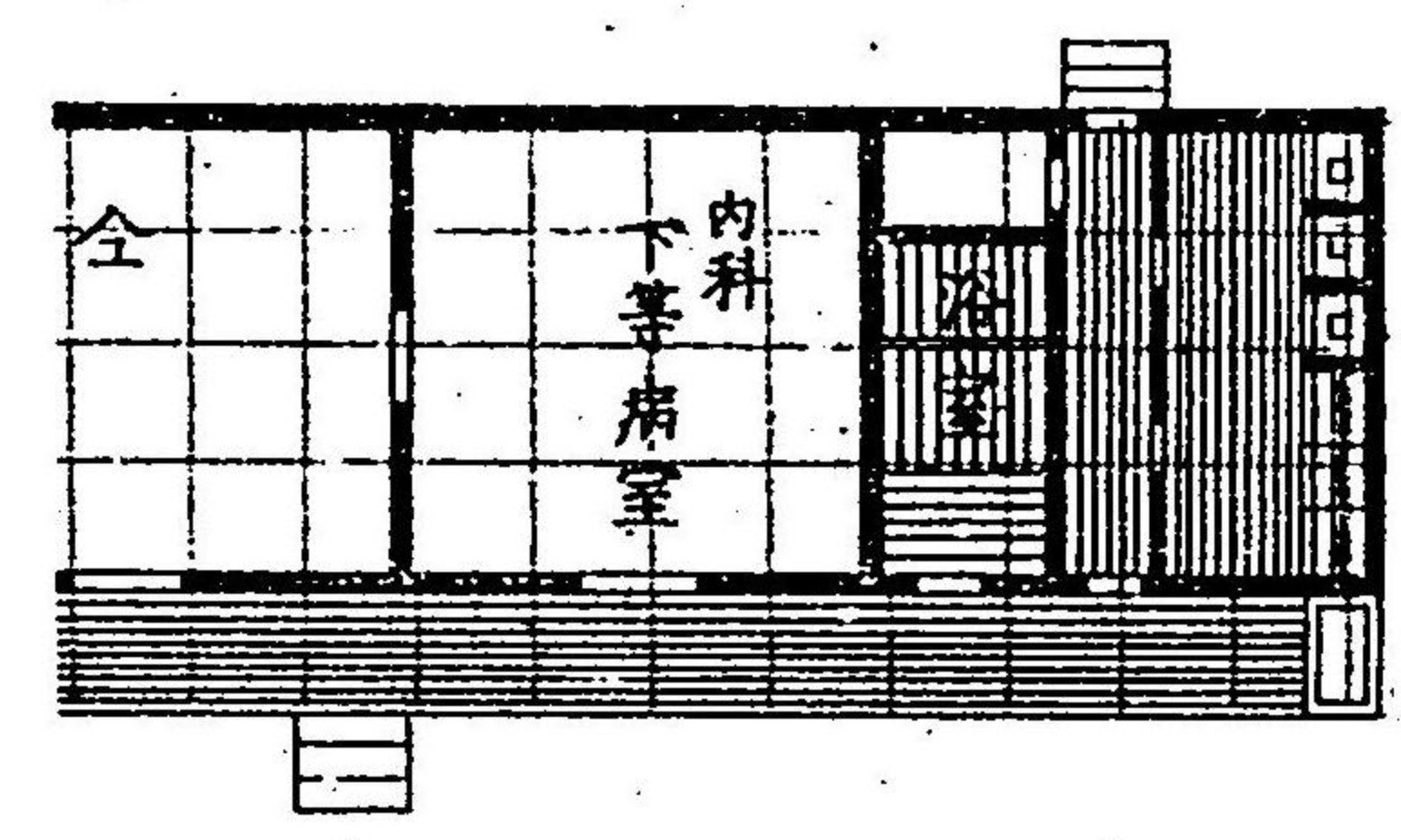
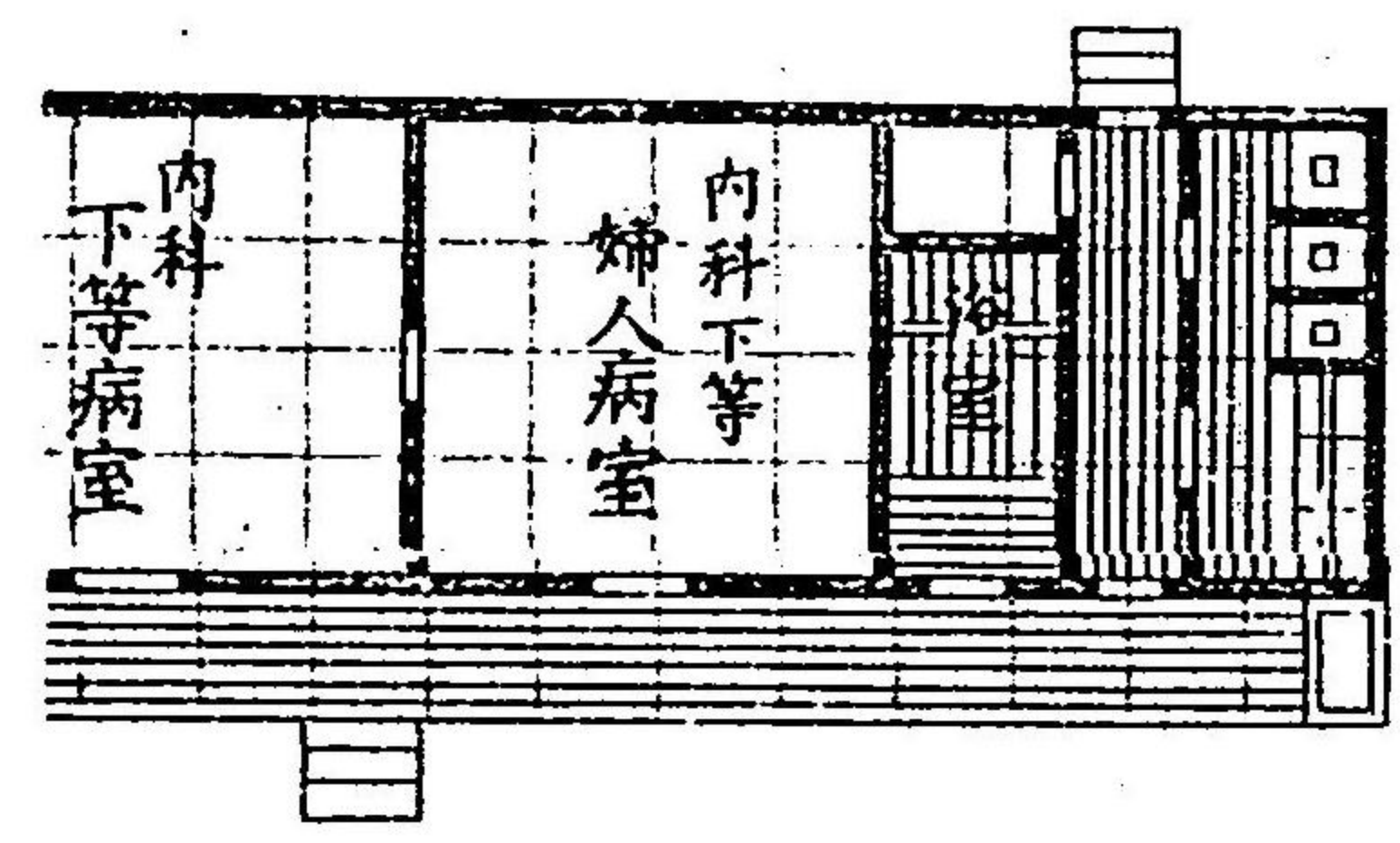
別課醫學教場



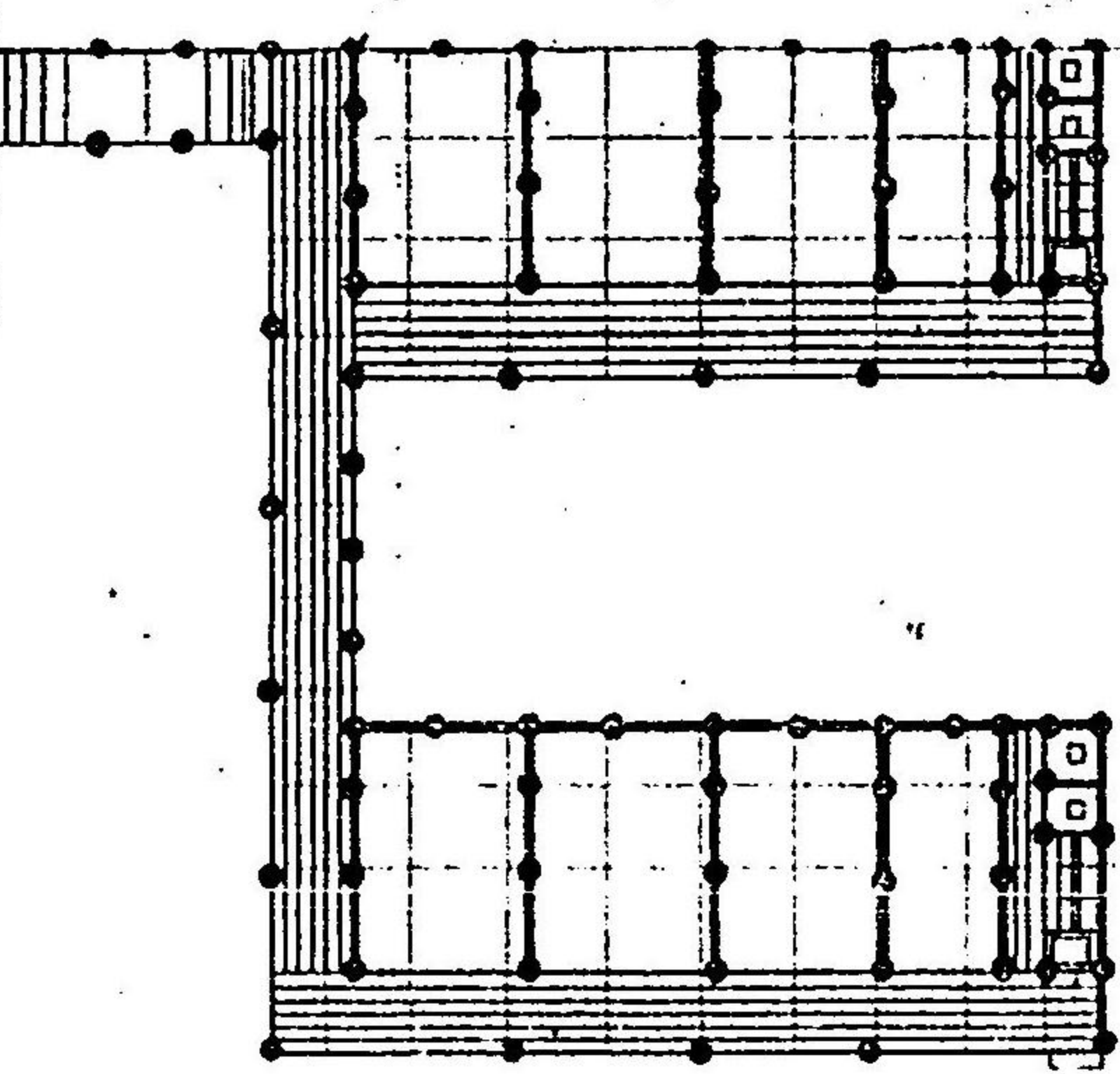
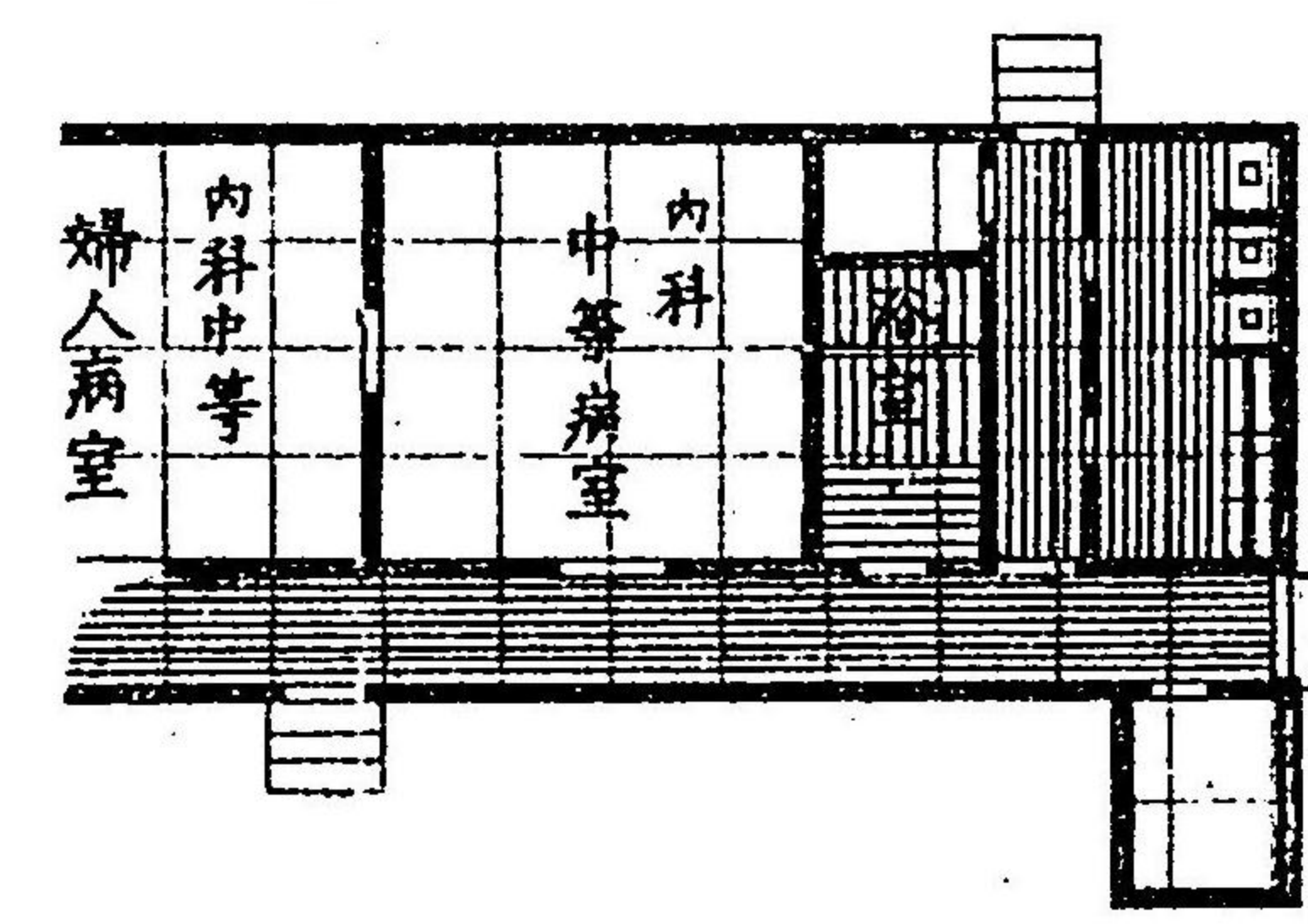
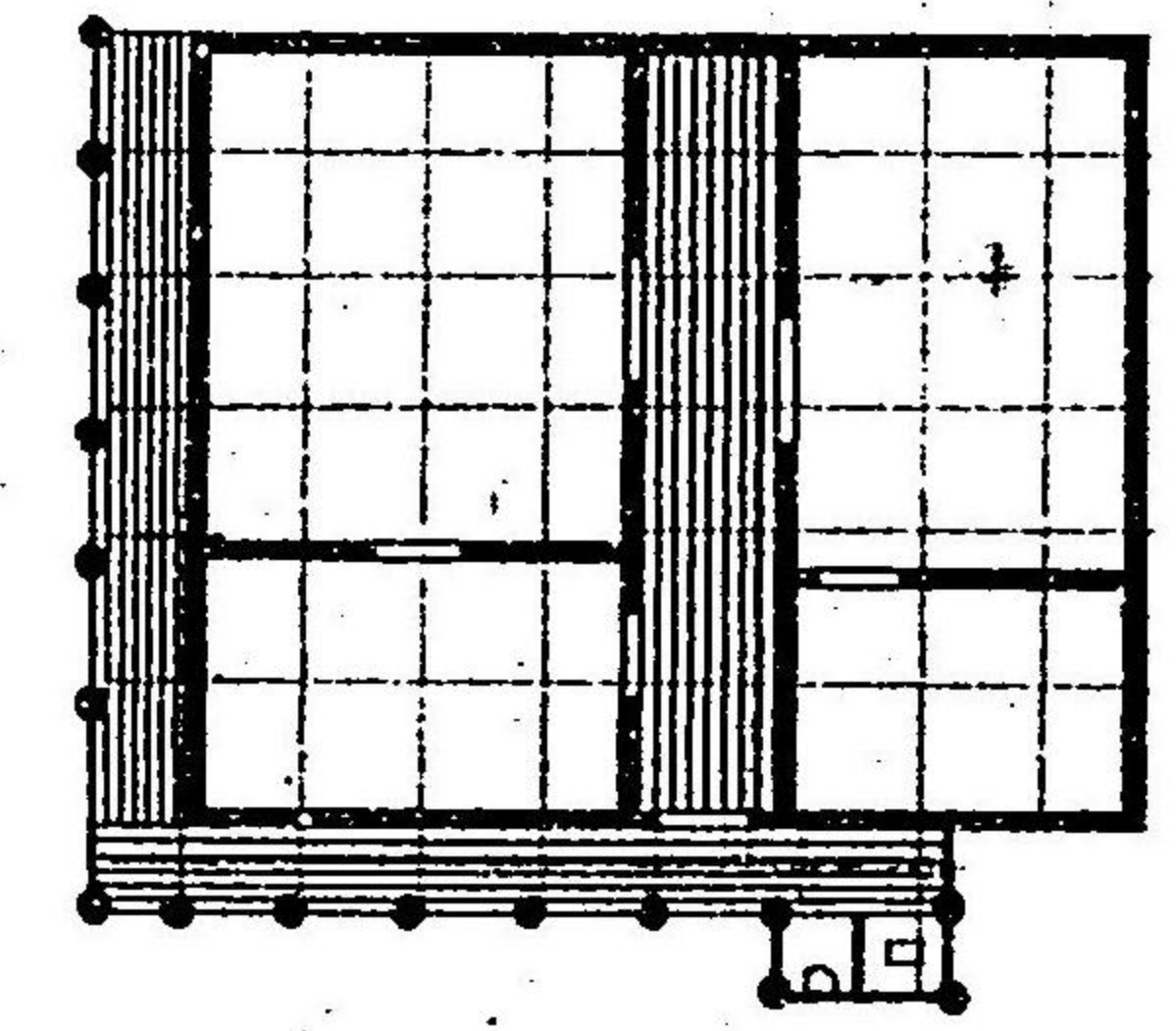


其五

宿舍寄



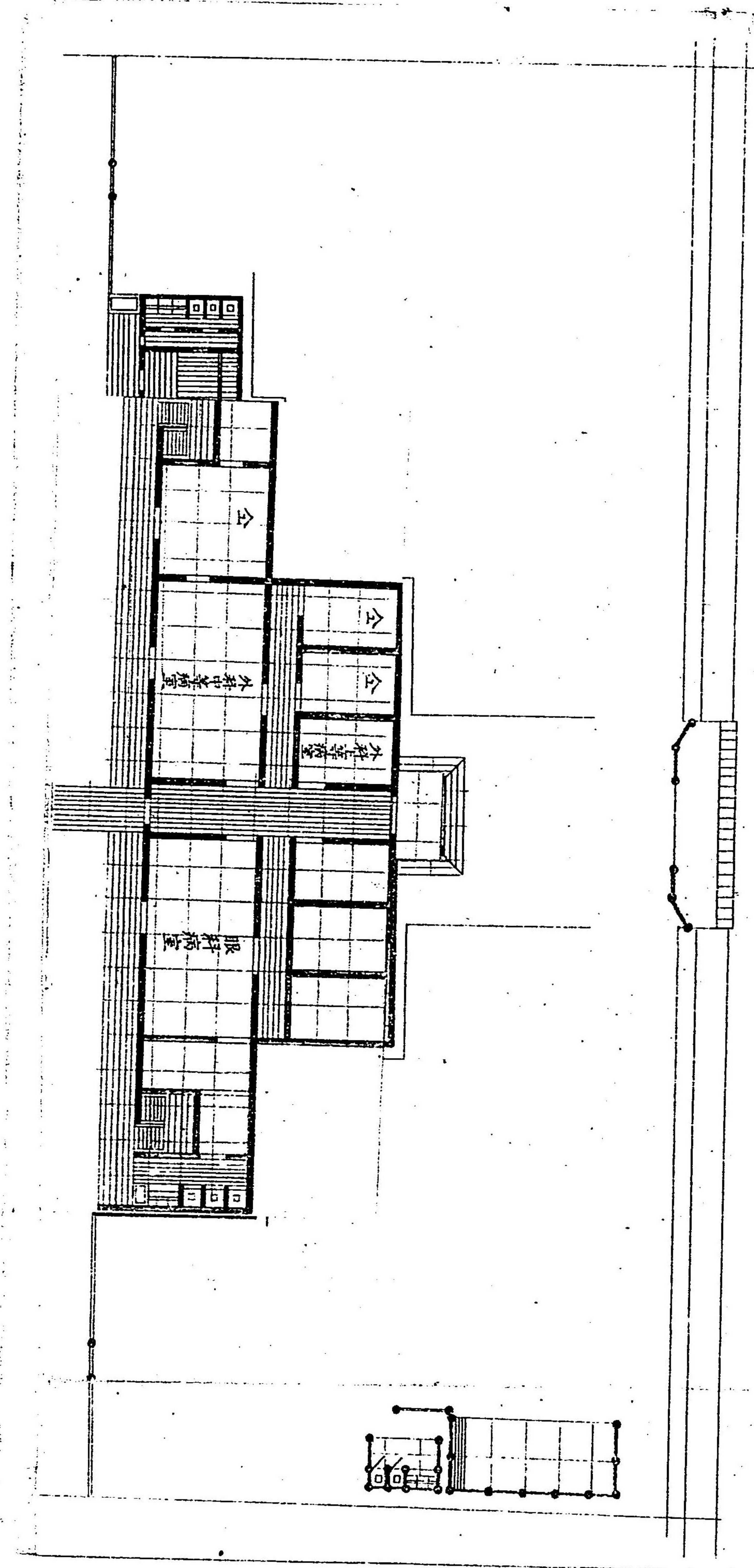
室割解炭局



傳染病室

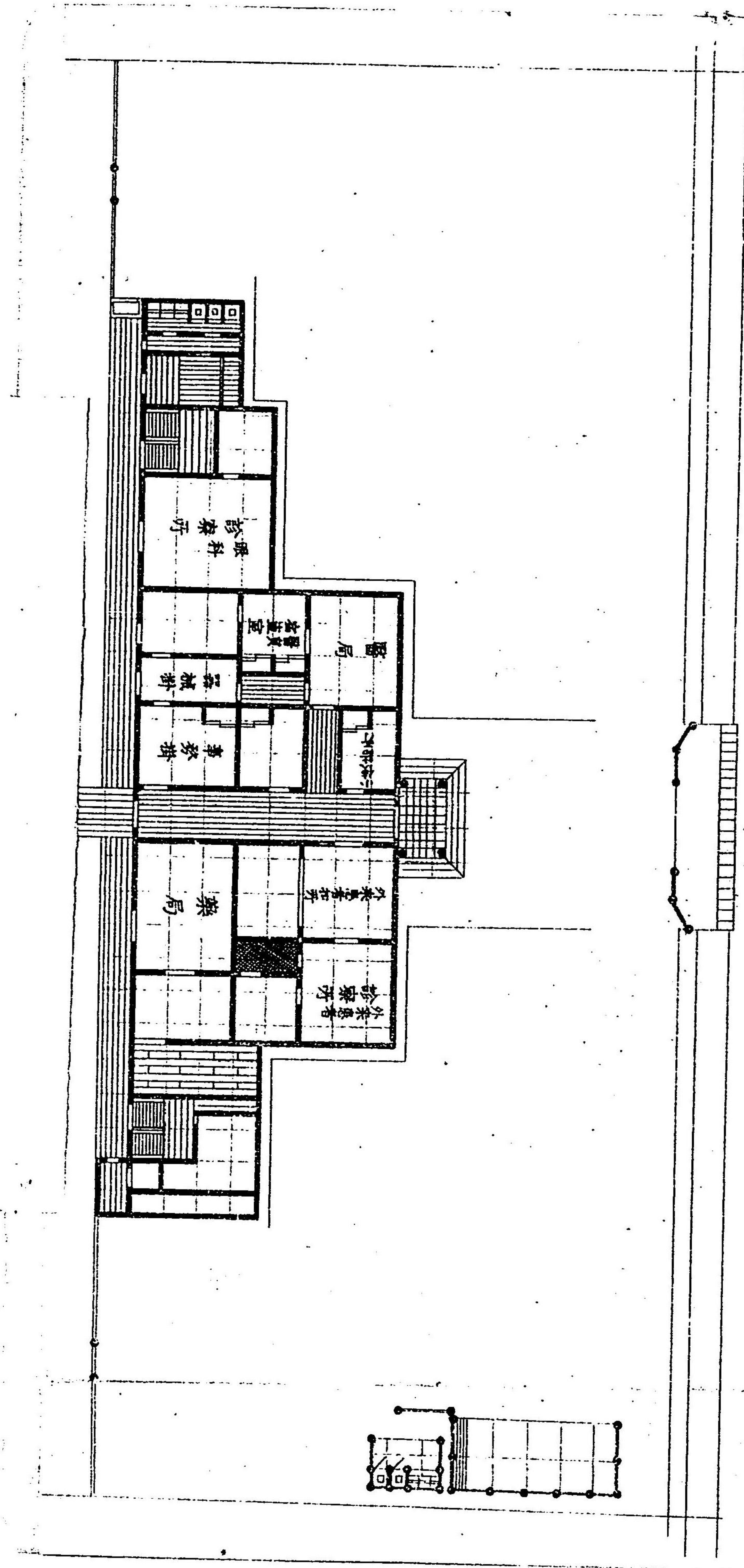
其七

附 属 病 院



其七

病 院 附 属



六月二日
七月十一日
九月十日
九月廿三日
十月十七日
十一月三日
十一月十六日
十一月二十日
十一月廿三日
十一月三十日
十一月三十日
十二月二日
十二月廿四日

別課醫學及製藥學
生徒夏學期ノ始メ
夏期休業ノ終リ
休業(秋季皇靈祭)
休業(神嘗祭)
休業(天長節)
醫學本科及預科生
徒定期試業ノ始メ
別課醫學及製藥學
生徒夏學期ノ終リ
休業(新嘗祭)
醫學本科及預科生
徒定期試業ノ終リ
醫學本科及預科生
徒夏學期ノ終リ
醫學本科及預科生
徒冬學期ノ始メ
冬期休業ノ始メ

第二章

沿革略誌

東京大學醫學部ノ濫觴ハ今ヲ距ルコト二十四年前安政五 戊午年 紀元二
十八 伊東玄朴 幕府與醫師 法主トナリ 戶塚靜海 全與醫師 法主トナリ 竹内玄洞 全
醫師 法印 等ニ謀リ 當時西洋醫術ヲ以テ業ヲ 江戸ニ開ク者 八拾餘名ト
私ニ一社ヲ結ビ 各金若干ヲ 齎シ 五百八拾餘圓ヲ得テ 以テ資ニ供シ 幕
府ノ允許ヲ得テ 其社友集會所ヲ 江戸神田於玉ヶ池ニ設ケタルヲ 原始
トス 當時勘定奉行川路左衛門尉大ニ此舉ヲ嘉シ 其所有地ヲ貸附シ之
ヲ助ク ト云フ 乃チ此所ニ於テ 專ラ種痘ヲ行ヒ 遂ニ名ケテ種痘館ト曰
フ 蓋シ專ラ種痘ヲ施ス所ニシテ 學術ヲ講習スル所ニハ アラザレバナ
リ 而シテ此館是歲祝融ノ災ニ罹ルヲ以テ 翌年 安政六 更ニ下谷和泉橋
通ニ新館ヲ建設ス
萬延元 庚申年 二千五百 幕府金若干ヲ賜ヒテ 其費用ヲ助ケ令シテ種痘

所ト改稱ス

文久元 辛酉年 二千五百再ヒ令シテ種痘所ヲ改メ西洋醫學所ト稱シ盡
 シ其校費ヲ給ス爰ニ於テ大槻俊齋全寄合ヲ以テ醫學所頭取ニ任シ校
 務ヲ主宰セシメ坪井芳洲今爲島郡鼎甫等ヲ教授職トナシ寄宿舎ヲ建
 設シテ生徒ノ入學ヲ許シ一ニノ學科ヲ教授ス又社中若干名ヲ撰ヒ化
 學解剖學種痘等ヲ分課シ講授セシメ且兼テ社中醫學講習ノ所トス當
 時伊東玄朴幕府ノ侍醫ヲ以テ醫學所取締ヲ兼テ頭取ノ上ニ班シテ諸
 事ヲ管理ス翌年 文久二年 俊齋歿ス仍ツテ緒方洪庵全與醫ヲ大阪ヨリ徵
 シ頭取トナシ池田多仲丸製藥所詰ヲ其補トス生徒漸ク廣集ス先是幕
 府松本真順后順ト長崎ニ遣リ和蘭海軍々醫トシトルボムベ氏ヲ同
 所ニ招聘シ醫術ヲ傳習セシム真順該地ニ病院ヲ設立シ寄宿舎ヲ設ク
 大ニ生徒ヲ集メボムベ氏ヲ補ケテ之ヲ教授ス後幕府其生徒中ヨリ
 伊東玄伯玄朴ノ養子后林研海幕府ノ侍醫林洞海二氏ヲ撰ミ和蘭國留
 方成ト改名ス

學ヲ命ス蓋シ歐洲ヨリ醫學教師ヲ招聘シ又同洲へ醫學留學生ヲ派遣
 シ又歐制ニ倣フテ病院ヲ設立スル等共ニ之ヲ以嚆矢トス洪庵歿シテ
 真順之ニ代ル

文久三 癸亥年 二千五百二月 西洋ノ二字ヲ削リテ單ニ醫學所ト稱ス
 明治元 戊辰年 二千五百王政維新ノ際一時廢校ニ屬セシト雖モ朝廷舊
 醫學所ヲ復興シテ以テ鎮將府ノ所轄トナセリ當時東北ノ兵革尙未タ
 戢マス故ニ官假リニ軍陣病院ヲ橫濱ニ設シ英醫ウヰリス氏ヲ聘シテ
 兵士ノ創痍ヲ療セシム是歲九月之ヲ下谷舊藤堂邸ニ移シ大病院ト稱
 ス醫學校之ニ屬セリ時ニ前田信輔ヲ其事務ヲ理メセシム尋テ中典
 醫緒方惟準之ニ代リ石神良策之ニ補タリ此際醫學所大病院共ニ軍務
 官ニ屬シ後東京府ノ所轄トナル
 明治二 己巳年 二千五百二月 醫學所ヲ大病院ニ合シ改メテ醫學校兼病
 院ト稱ス五月官舊昌平學校ヲ以テ大學校ト名ツケ本校之ニ隸ス十二

月大學校ヲ大學ト改稱シ本校其東ニアルヲ以テ大學東校ト改ム此時
大學權判事岩佐純同相良知安校務ヲ理事ス

明治三 庚午年二千五百 獨逸聯邦普魯西國ヨリ教師ヲ聘セシキ者ハ
シ允可ヲ得テ之ヲ普魯西國ニ囑セリ又刑人ノ死躰歸スル所ナキ者ハ

解剖セシキヲ請ヒ其裁可ヲ得ル是歲醫學留學生拾貳人ヲ撰ヒ普魯西
國ニ派遣ス

明治四 辛未年二千五百 普魯西國ノ陸軍々醫正ドクトル、ミユレル、同海軍々
醫ドクトル、ホフマンノ二氏聘ニ應シテ來航ス延テ教頭ト爲シ大ニ學

則チ改革シ學科ノ課程ヲ定メ更ニ預科本科ノ二科ヲ設ケ假リニ獨逸
人ドクトル、シモンズ氏ヲ雇フテ預科ヲ教授セシム八月大學東校ヲ單

ニ東校ト改ム

明治五 壬申年二千五百 製藥學教授ニユウヰルト氏理化學教授ドクト
ル、コッヒス氏博物學教授ドクトル、ヒルゲンドルフ氏語學教授ドクト

ル、フオンク氏等聘ニ應ニ獨逸國ヨリ來航ス由ツテ預科生徒ヲ募ル先
是大學大丞兼大學大博士佐藤尙中岩佐純ニ代リテ校務ヲ理ム尋テ文

部少助教長谷川泰之ニ參ス八月第一大學區醫學校ト改稱ス文部省五
等出仕相良知安再ヒ校長トナル

明治六 癸酉年二千五百 六月製藥學教場ヲ設ケ教則ヲ定ム七月解剖學
教授獨逸人ドクトル、デーニツ氏來航ス十月東京府囚獄懲役場養育院

ノ病屍解剖ヲ允請ス

明治七 甲戌年二千五百 五月東京醫學校ト改稱九月文部省四等出仕長
與專齋校長トナル十月長崎醫學校ヲ本校ニ併ス八月ドクトル、ミユル

レル、ドクトル、ホフマン兩氏期滿チ雇ヲ解ク爾來外國教授ノ是月本校
ヲ本郷舊加州邸内ニ於テ新築經營セシキヲ允請ス

明治八 乙亥年二千五百 五月始メテ通學生教場ヲ開キ邦語ヲ以テ普通
醫學ヲ教授ス學ニ入ル者六拾名爾後每年五月十一月ノ兩期ニ於テ各

六拾名ヲ募ル七月本校建築ノ經營ニ着手ス

明治九 丙子 年 二千五百 六月陸軍々醫監 兼 文部省四等出仕池田謙齋校

務ニ參ス十一月新ニ製藥學通學生教場ヲ設ケ毎年五月十一月ノ兩期

ニ於テ生徒各六拾名ヲ募ル十二月本郷ノ建築畧ホ其功ヲ竣ム因テ本

校ヲ移ス

明治十 丁丑 年 二千五百 四月池田謙齋校長ノ任ヲ囑セラレ長與專齋校

務ニ參ス同月文部省令シテ本校及東京開成學校ヲ合セテ東京大學ト

改稱シ法理醫文ノ四學部ニ分ツ仍ツテ本校ヲ東京大學醫學部ト稱ス

十一月預科教則中和漢學ノ一科ヲ置ク

明治十一 戊寅 年 二千五百 一月醫學本科卒業生徒俊秀ノ者三人ヲ撰舉

シ獨逸國へ留學セシメノヲ請フ(十二年ニ於テ其)六月新ニ書籍展覽

室ヲ設ケ本部所藏ノ書籍其部數僅少ニシテ各人ニ貸附シ難キモノヲ

備へ教員生徒ノ就テ之ヲ閱覽スルノ便ニ供ス十一月醫學通學生臨床

講義ノ用ニ供スル爲メ神田和泉町壹番地ニ於テ新クニ病院ヲ設立シ

附屬病院ト名ツク十二月學位授與ハ大學ニ於テ施行スヘキノ令アリ

明治十二 己卯 年 二千五百 二月醫學本科卒業生卒業試業規則ヲ定ム三月綜

理心得長與專齋解任シ陸軍一等軍醫正 兼 文部省御用掛石黒忠慮綜理

心得ノ任ヲ囑セラレ是歲本部ノ建築既ニ竣功スルニ因リ文部大輔田

中不二磨其狀ヲ奏上シ四月廿二日

天皇皇族大臣參議以下百僚ヲ率テ本部ニ臨御親シク開業ノ式ヲ舉ク當

時本部ノ教則漸ク整頓シ遠近ヨリ笈ヲ負テ入校スル生徒現ニ一千四百

余人ノ多キニ至ル然レモ毎ニ生徒募集ノ際ニ當リ入學請願者ノ過多ナ

ルニ苦シム七月始メテ醫學通學生三拾壹人へ卒業證書ヲ授與ス九月新

クニ醫學本科生徒ニ理科試業規則ヲ定メ全十三年一月初メテ此ヲ舉行

ス十月初メテ醫學本科卒業生十八人製藥學本科卒業生拾九人へ學位及

卒業證書ヲ授與ス蓋シ本邦古來ヨリ未ダ學位ノ制アラズ往昔博士得業

生等ノ稱アリシモ皆官名ニシテ學位ニアラズ故ニ大學ニ學位ノ制ヲ定
メシコトヲ文部省ニ稟請シテ其裁定ヲ得タリ乃チ大學ノ學科ヲ卒業セ
ル者則テ試業規ノ試業ヲ行ヒ及第スル者ニハ學士ノ稱ヲ授與ス本部ノ醫學
及第生ニハ醫學士製藥學及第生ニハ製藥士ノ稱ヲ與フ十一月醫學士三名
ヲ撰拔シ文部省ヨリ學費ヲ貸與シテ獨逸國ニ遣リ各專門學ヲ修メシム
明治十三年辛巳年二千五百 四月製藥學本科及通學生ヲ合併シテ該學科
課程ヲ釐革ス十月醫學通學生ヲ別課醫學生ト改稱ス

第三章

教旨

夫レ醫學ノ本旨ハ生民天賦ノ健康ヲ保全スルニ在リ而シテ之ヲ教導
シ之ヲ擴充セント欲スルニハ二箇ノ目的ヲ有セザルベカラズ一ハ學
業ヲ專修スルナリ一ハ技術ヲ磨磨スルナリ甲ハ則チ勉メテ醫學ノ蘊

奥ヲ窮極スルヲ謂ヒ乙ハ則チ實際ノ醫療ニ卓絶ノ功績ヲ企望スルヲ
謂フ今此兩岐ニ就テ生徒ヲ教育スルハ各其弊ナギ能ハス例之ハ甲
ニ偏スルハ唯其理論ニ拘泥シテ實驗ニ徵スルヲ須キス終ニ其治術
ノ拙劣ヲ免レズ乙ニ僻スルハ徒ニ自家ノ經驗ヲ臆信シテ學說ノ何
物タルヲ知ラス今日之ヲ不明ニ付スル病因ハ持シテ數年ノ久キニ至
ルモ曾テ之ヲ發見スルヲ得サルカ如シ

現今本邦政治ノ變移スルニ隨ヒ醫ノ職タル畜ニ察病ノ一端ニ止ラス
裁判衛生等ノ如キ治民上ニ於ケルモ亦頗ル參與スル所多シ因テ目下
ノ急務トスル所ハ許多ノ醫生ヲ養成シ普ク之ヲ全邦ニ配置シ治療審
査及ヒ健康等ノ事項ニ準備スルニ在リ然ルニ今一箇ノ大學ヲ以テ此
全邦ニ配置ス可キ無數ノ醫生ヲ養成スルハ極メテ難事ニ屬スルカ故
ニ本部ニ於テハ他ノ醫生ヲ教導シ醫學ヲ擴充スルニ適應セル人材即
チ醫學士ヲ養成スルヲ以テ要務トナスヘシ

現今本部ニ於テ遵行スル所ノ教則ニ生徒ノ未ダ本科ニ達セサル前ニ當ツテ踐修セシムル課程アリ乃チ語學數學及ヒ動植物學鑛物學等ニシテ之ヲ預科ト稱ス

本邦ノ醫學尙ホ歐米ノ法ニ則トルノ今日ニ在テハ羅甸學及英佛獨等ノ各國ノ語學ヲ兼修セサルベカラズ何トアレハ本部ニ在ツテ專ラ獨逸語ヲ學ヒ既ニ卒業スルノ後ニ於テ偶他邦ノ醫事ニ新發明アルノ報告ヲ得ルモ其語ヲ解セサルハ直ニ之ヲ了讀シテ其可否ヲ實驗ニ試ムルヲ能ハス亦醫學ヲ擴充スルノ一障礙タレバナリ然ルニ目今本部ニ招聘セル教師ハ盡ク獨逸人ナレハ生徒ニ教フルモ亦專ラ其國語ヲ以テス固ヨリ一國ノ語ヲ學ヒ自ラ足レリトスルニアラス蓋シ已ムヲ得サルニ出ツ

數學及動植物學鑛物學等ノ高尙ナル中學課程ヲ踐修セシムルハ畢竟生理病理二科ノ基礎ヲナス者アリ而シテ進テ上級ニ達シ理科ニ入ルル

ハ其修ル所ハ乃チ理學化學及解剖學生理學等ニシテ後來醫學ヲ擴充スルノ大眼目マリ故ニ勉メテ之ヲ講窮セサルヘカラス譬ヘハ夫ノ農學者ノ地質ヲ研窮シテ百穀播種ノ適否ヲ豫知スルカ如ク眼科ノ學ヲ擴充スルニハ先ツ光線反射屈折ノ理ヲ明ニシテ其他解剖生理ノ二學ヲ以テ病理學ノ基礎ヲナスモ亦同一般ナリ

既ニ本科ニ達シ其修ムル所ノ學課ハ內科外科及藥劑等ノ諸科ニシテ從前講習スル所ヲ以テ之ヲ實地治療ニ經驗スル者ニシテ畢竟技術ヲ練磨スルニ過キス今ヤ人ヲ教導シ學術ヲ擴充スルヲ以テ目的トスル者ハ宜シク意ヲ理科ニ留ムベシ

目下醫生ヲ養成スルノ急ナルニ當ツテ本部ニ於テハ將來醫學士ニ適應ス可キ人材ヲ募集教育スルハ論ヲ俟スト雖也或ハ就學年限ノ久時ヲ費スニ由テ其素志ヲ遂クル能ハサル者アリ或ハ疾病事故等ニ由テ中道ニ廢學スル者アリ是ヲ以テ十年ノ課程ヲ踐修シ了ルハ容易ナラ

大故ニ別ニ邦語ヲ以テ普通醫學ヲ教授シ其孰學年限僅ニ四年ヲ以テ疾病ヲ救療スル一般ノ技術ヲ通曉スルノ方法ヲ設ケタリ(即チ別課ナリ)蓋シ此法ニ據テ教育スルノ生徒ハ羅甸學及各國ノ語學等ノ預科ヲ教ヘサレハ專ラ醫學本分ノ諸科ヲ修ムルニ十分ノ時間ヲ費スル由テ其技術ヲ練習スルニハ固ヨリ遺漏アルコトナシ而ルニ此生徒ニモ亦理科ニ屬スル諸科ヲ其初ニ授クルト雖ヒ是レ此科ニ入ルノ地ヲナス者タリ譬ヘハ解剖學ノ如キハ外科手術ニ方ツテ其部ノ脈管神經等ノ分佈スルノ狀ヲ審ニシテ其執刀ノ際疑似スルコト勿ラシムルノ主旨ニシテ恰モ引港人ノ港水ノ淺深及暗礁等ノ有無ヲ熟知シ入津ノ船舶ヲシテ安全ナラシムルガ如シ進ンテ醫學本分ノ學科ニ入ルノ日ハ内外治術藥劑等ノ諸科ヲ研窮シ親シク病者ニ接シ之ヲ處置スルコトヲ學ハシム夫ノ疾病ヲ救療スルノ技術ヲ實際ニ練磨スルヲ以テ目的トスル者ハ宜シク意ヲ當科ニ留ムヘシ

第四章

學科課程

第一條

醫學預科課程

等		級		學科		並授業時間	
五等第一年	下級	習字	三時	算術	二十時	讀方	六時
	上級	讀方	六時	文法	四時	作文	六時
四等第二年	下級	文法	五時	地理學	二時	分題數	六時
	上級	文法	六時	地理學	三時	比例	六時
三等第三年	下級	算術	二十時	地理學	四時	幾何學	四時
	上級	算術	二十時	博物學	二時	幾何學	四時
二等第四年	下級	算術	十時	博物學	三時	幾何學	七時
	上級	算術	十時	博物學	三時	幾何學	七時
一等第五年	下級	算術	八時	博物學	八時	代數學	四時
	上級	算術	八時	博物學	八時	代數學	四時

第二條 醫學本科課程

等第五年		等第四年		等第三年		等第二年		等第一年		等 級 學 科 並 授 業 時 間
上級	下級	上級	下級	上級	下級	上級	下級	上級	下級	
眼科各論及 外科各論 時六	眼科各論及 外科各論 時六	外科各論 時六	外科各論 時六	外科總論 時四	外科總論 時四	物理學 時四	物理學 時四	物理學 時四	物理學 時四	物理學 時四
病理各論 時六	病理各論 時六	病理各論 時六	內科各論 時六	內科總論及 病理解剖 時四	內科總論 時四	化學 時四	化學 時四	化學 時四	化學 時四	化學 時四
外科臨床講義 時六	外科臨床講義 時六	外科臨床講義 時六	外科臨床講義 時六	藥物學 時六	生理學 時二十	用顯微鏡 法 時六	解剖學 時二十	實地植物學 時四	醫科動物學 時四	醫科動物學 時四
內科臨床講義 時六	內科臨床講義 時六	內科臨床講義 時六	內科臨床講義 時六	製劑學 實地演習 時六	實地生理學 時六	生理學 時二十		解剖學 時六	各部 時六	解剖學 時二十
外科手術 實地演習 時六				分析學 實地演習 時六				組織學 時六		
								六至四 時		

第三條 別課醫學課程

等級

學科並授業時間

(此印アル學科ハ百分欠ク)

八學期第四年 八期	七學期第三年 七期	六學期第三年 六期	五學期第三年 五期	四學期第二年 四期	三學期第二年 三期	二學期第一年 二期	一學期第一年 一期
(精神病) 內科臨床講義 時六	(小兒科) 產科學 時四	縮帶學 時二	內科各論 時六	內科各論 時六	藥物學 時六	組織學 時四	無機化學 時六
外科手術學 時六	皮膚病梅毒 時二	內科臨床講義 時六	外科各論 時六	外科各論 時六	內科通論 時六	生理學 時四	植物學 時四
(婦人病論) 時三	內外科外來患 者臨床講義 時六	外科臨床講義 時六	外科臨床講義 時六	外科通論 時六	有機化學 時四	解剖學及 實地演習 時二十	動物學 時三
產科臨床講義 時三	眼科臨床講義 時三	眼科臨床講義 時三	外科臨床講義 時三	(局處解剖學) 時六	物理學 時二		
(裁判醫學) 時三	內外科外來患 者臨床講義 時三	內科臨床講義 時三	眼科 時四				
(衛生學) 時二	產科臨床講義 時二	處方學 時二	病理解剖學 時二				

第五章

醫學及製藥學教科要目

物理學

物理學ハ醫學ニ於テハ諸科ノ首初ニ講窮スヘキ者ニシテ生理病理治療等ノ諸科一トシテ原ヲ物理學ニ資ラサルモノナシ而シテ之ヲ教授スル要旨ハ一般理學ヲ教授スルノ上ニ其醫學及ヒ製藥學ニ必要ナル部分ヲ以テシ且ツ器械ヲ裝置シ實際ノ試驗ヲ示シ以テ生徒ヲシテ了解記憶ニ易カラシム此教科書ハ別課醫學及製藥學生ニハ助教飯盛挺造著物理學ヲ用フ又參考書ニハ其類頗ル多ク悉ク此ニ書名ヲ掲クルニ違アラスト雖モ就中要用トスル者左ノ如シ

ミユルル氏物理學 大中共

アイゼンロール氏物理學

ウント氏醫學物理書

- コツペ氏物理學
- ウユルネル氏物理學
- ヨフマン氏物理學
- チンメルマン氏氣中現象學
- グラハムオット氏物理化學書
- ポーン氏物理研窮書
- フリッソ氏物理手術書

無機化學及有機化學

此學モ亦タ物理學ト共ニ醫學諸科ノ首初ニ必要ノ一學科ニシテ之ヲ
 教授スルノ要旨ハ無機有機兩体ニ於ル離合變化ノ定則ヲ究明セシム
 ル者ニシテ生理學藥劑學病理學治療學等ヲ修ムルニ當テハ皆此學ニ
 由ラザルモノナシ

- 此教科書ハ別課醫學生及製藥學生ニハ助教製藥士丹波敬三全下山順
 一郎纂譯ノ無機化學及有機化學ニシテ(本科生ニハ教科書ヲ用ヒス)參考ニ供スル所
 ノ書名ハ概テ左ノ如シ
- ピンチル氏化學書
- グロップベサチツ氏化學書
- ホサマン氏化學書
- シヨルレンメル氏化學書
- グラハムオット氏化學書
- ケキユレ氏化學書
- ストレケル氏化學書
- ロスコー氏化學書
- ビユヒチル氏化學書
- ムスプラット氏百工化學書

ワグネル氏百工化學書
 ハイゲル氏獨乙局方註解
 ナット氏化學書
 アンチンシャイン氏化學書
 ホフマン氏化學書

解剖學及組織學

解剖學ハ身体諸部并ニ臓器ノ形質位置联接等ヲ究明スル學ニシテ實ニ醫學全科ノ基礎ヲ成シ其關係最モ重シ故ニ諸科ノ初メニ之ヲ講窮セシム。而シテ斯學ハ殊ニ論理ヲ受ケ且屍體ヲ解剖シ實地ニ演習スルニ非レハ其學說ヲ了解記憶スルヲ難シ故ニ解剖的列品場ニ貯フル所ノ實物或ハ圖譜ヲ示シ順次之ヲ教授シ兼テ執刀法ヲ學ハシム。組織學ハ專ラ身体ノ形成成分即チ組織素ヲ顯微鏡上ニ研覈スル者ニシ

テ論理ニ參スルニ顯微鏡ヲ用シ組織學的ノ製造品ヲ示ス或ハ圖譜又ハ照影鏡等ヲ用ヒテ之ヲ教授ス。此二學ニ用フル教科書ハ別課醫學生ニハ教授田口和美著解剖攬要及人體組織攬要ノ二書ニシテ(本科生ニハ教科書ヲ用サス)參考書ハ
 イヘンレー氏系統解剖書
 フペルト、ルシヨシア氏部位解剖書
 ウエ、クラウビ氏解剖書
 シエン氏解剖書
 ア、キヨルンケル氏組織書
 エス、ストリックケル氏人體及動物組織書
 ハイソリッヒフライ氏組織及組織化學書
 ヨス、ヒルトル氏解剖技術書
 ベ、ハルチング氏顯微鏡書

ア、キョリケル氏胎生學

ノ、ノ、氏比較解剖書

醫科全書解剖篇

重訂解體全書

生理學

生理學ハ身軀ノ生々化育スル理則ヲ窮ムル學ニシテ總論各論ノ二ニ
大別シ生活力、動植物ノ區別、人身体質ノ化學的成分等ヲ總論トナシ血
液、榮養、體質、新陳代謝ノ平均、呼吸、動物ノ体温、運動、神經、五官、生殖機能等
ヲ各論トナス必竟生物ノ平素生育スルハ此理則ニ由ラザルモノナシ
又生物ノ疾病ハ生理的ノ變常ニ外ナラズ内外諸科ノ病學ヲ講究スル
ニ先ツテ此科ヲ脩メ以テ身体平常ノ理則ヲ明カニセザレバ決シテ其
變常タル病疾ヲ發明スルコトヲ得ベカラサルナリ故ニ論理ノ他或ハ生

活動物ニ就キ生理的若シハ化學的ノ試驗ヲ施シ之ヲ證明シ又圖書
骨格及人工軀ニ就テ諸部分ノ關係及其器械的作用ヲ示シ或ハ製造品
ヲ取リ顯微鏡ニ照シ力メテ此學ヲ理會シ易カラシム
此ニ用フル教科書ハ別課醫學生ニハドクトル、ナイゲル氏著生理學及
ヒ教授永松東海著生理學ヲ用フ(本科生ニハ教)其參考ニ供スル書札
ハ左ノ如シ

ランケ氏生理學

ヘルマン氏生理學

スタイヤル氏生理學

ヒールナルト氏生理學

ベツケル氏生理學

ハレンナン氏生理學

グリユエレハーゲン氏生理學

- フリッケ氏生理學
- クウエーソン、ホフマン氏解剖學
- ハイツマン氏解剖學
- キユース氏生理學
- フライ氏組織學
- ウント氏生理學
- ゴロップ、ベサテツツ氏生理化學

內科學

內科學ハ治療學ノ一部ニシテ内部諸病ノ理則及ヒ治療スル學ナリ一ハ內科通論一ハ內科各論トス其通論ニ於テハ廣ク全身ノ諸器ニ發スル疾病ノ理ヲ概論シ且其症候ヲ審ニシテ後期ニ於テ講習スル所ノ課目ヲ了解シ易カラシムルニ在リ內科各論ニ於テハ身軀諸系各器ニ發

現スル病患ノ原因病理及診徵療法等ヲ説明シ病者ニ對シ之ヲ處置スルノ方法ヲ指示スルニ在リ而シテ此通論各論ノ講義ヲ授ケテ後々更ニ病床實驗ニ於テ其理論ヲ實際ニ徵セシム此ニ應用スル教科書ハ完本ナキニ由テ生徒ヲシテ講筵ニ筆記セシム參考ニ供スル書籍ハ頗ル夥多ナルヲ以テ一々之ヲ枚舉セズ唯日常引用スル所ノ者ヲ左ニ掲ク

- コーンハイム氏病理總論
- ストリツケル氏病理總論
- サムエル氏病理總論
- ワグチル氏病理總論
- ハルトマン氏病理總論
- レベルト氏病理總論
- ベルス氏病理總論
- スイエル氏病理解剖總論

リントフライシ氏病脈組織學
 フオエルステル氏病脈解剖各論
 シレプス氏病脈解剖各論
 ニーマイエル氏病理各論
 シヤツクロー氏內科病理書
 レベルト氏治療書
 グンツエ氏治療書
 エットキン氏治療書

外科學

外科學亦タ治療學ノ一部ニシテ外部諸病ノ理則及治療ヲ究明スル學
 ナリ之ヲ分ツテ二トナス一ハ外科總論一ハ外科通論トス總論ニ於テ
 ハ外科ニ關スル諸病ノ原因病理及治法ノ通則ヲ論シ各論ニ於テハ身

體諸部ノ外科的ニ屬スル病症經過及治法ノ其部ニ於テ各異ナル所ヲ
 説明ス而シテ此教授ノ方法ハ專ラ實際上必要ノ理論ヲ主トシ傍ラ圖畫
 製造品及器械等ヲ指示シ且理論ヲ講授シ了リテ後テ病床實驗ヲナサ
 シメ以テ理論ヲ實際ニ徴セシム此ニ應用スル教科書ハ未ダ編纂ヲ經
 サルニ因テ姑ラク其ノ講義ヲ筆記セシムルノミ左ニ掲載スル諸書ヲ
 以テ參考トス

ピルロート氏外科總論
 グロス氏外科總論及各論
 ハイツマン氏外科總論及各論器械論手術論
 スミット氏外科簡論
 ハルデレーベン氏外科論及手術論
 ローゼル氏外科各論
 リンハルト氏外科手術論

ヒタ及ヒルロート氏外科論圖譜
 エスマルヒ氏軍陣外科論
 ヘルナルト氏外科手術圖譜
 ローゼル氏局所解剖論
 ナーヤフェルデル氏病體組織圖譜
 フェルステル氏病體組織圖譜
 ブルونس氏外科器及手術論
 キュルニヒ氏外科各論

診斷學

診斷學ハ身体疾病ノ所在ヲ查實スル學ニシテ要旨ハ諸病ヲ鑒定スルニ方ツテ應用スベキ諸種ノ方法ヲ說示シ生徒ヲシテ病者ニ就テ實地ヲ練磨セシム其教科書別課醫學生ニハグロートマン氏及フグリアウフ氏著診斷書ヲ用フ(本科生ニハ教科書ヲ用フ)

綑帶及器械學

器械學ハ外科的治療ニ供用スル諸種ノ器械ノ裝置及用法ヲ明示シ綑帶學ハ身體各部ニ施用スベキ綑帶ノ用法ヲ教示ス其ニ實地ニ之ヲ演習セシム此教科書ハ別課醫學生ニハ外科教授ドクトルシユルツ氏講義ノ器械及綑帶學ヲ用ヒ(本科生ニハ教科書ヲ用フ)左ノ諸書ヲ參考ニ供ス
 ハイツマン氏外科書
 トロツセル氏綑帶書
 ブロンス氏外科器械書

藥劑學

藥劑學ハ藥物ノ性質形狀并健康體ニ致ス所ノ作用ヨリ其醫治効用ニ量用法等ヲ教ル學ニシテ之ヲ教授スルニハ藥品ヲ含密的ニ分類シテ類毎ニ其性質効用ヲ摘說シ各品ニ就テハ實物ヲ指示シサテニ其効用

論理獸類試驗、主治、禁忌、用量、中毒治療ノ項目ヲ論シ、傍ラ日常使用スル所ノ藥品ハ其製劑ノ製法、處方、禁忌等ヲ説明ス、然レモ未ダ一定ノ教科書ナキニ因テ生徒ヲシテ筆記セシム參考ニハ左ノ諸書ヲ用フ

第二板并ニ第三板ノ「トナーゲル氏及ヒロックスバツフ氏合著藥劑書」

第三板「ブッフハイム氏藥劑書」

第四板「ビンツ氏藥劑書」

「フーゼマン氏藥劑書」

「ロート氏藥劑書」

「スミット氏藥劑書」

「ハーゲル氏コンメンタール、デル、ハルマコヒーワルデンブルフ氏及ヒシモンス氏合著配劑書」

處方學

處方學ハ醫士ノ日常病者ニ對シ藥方ヲ處スルノ順序及配合禁忌ヨリ其藥物ノ性質ニ隨テ或ハ丸ヲ作リ或ハ散ヲ作ル等ヲ論スル者ニシテ之ヲ教授スルノ旨ハ其配劑及用量ノ差異ヨリシテ化學的作用ヲ起シ不虞ノ患者ヲ招ク等ノ錯誤ナキヲ要スルニ在リ左ノ諸書ヲ參考ニ供ス

「ワルデンブルグ氏調劑詳論」

「シーモン氏調劑詳論」

「ハーゲル氏實地調劑書」

內科臨床講義

內科理論ヲ聽講スル生徒ニハ病者ノ實地ニ臨マシメテ講義ヲ授ク之ヲ內科臨床講義ト稱ス其法生徒一名ニ患者一人ヲ配付シ實地診察ヲ

演習セシメ病床日誌ヲ作り其鑑識原因預后療法ヲ詳細ニ説明シ本邦ト歐米ト病症ノ異同アルヲ辨シ且ツ之ヲ確實ナラシメンガ爲ニ諸大家ノ論說ヲ引證シ或ハ日常實驗スル所ニ從テ療法ノ可否及ヒ施治ノ便宜ヲ説キ時々病屍ヲ剖觀シテ病的ノ變狀ヲ精査ス此科ヲ教授スルハ乃チ生徒ガ數年間學ヒ得タル所ヲ實際ニ練磨スル者ナリ教科書ハ別課醫學生ニハニーマイル氏及サイツ氏著內外科各論ヲ用フ(本科生用書ナ)

外科臨床講義

外科論理ヲ教授スルニ當テ生徒ヲ病者ニ就テ實驗セシムルヲ猶內科ニ於ルト同シ之ヲ外科臨床講義ト稱ス乃チ教場ニ於テ患者ニ就キ其鑑識原因預后治術ヲ法ニ據リ之ヲ論說シ數名ノ生徒ヲ助手ト爲シ相共ニ其手術ヲ施シ一般生徒ヲ傍觀セシム而シテ其經過ヲ審ニセンガ爲

メ病床日誌ヲ製シ始終ノ病症ヲ細記セシム患者若シ不幸ニシテ死スル時ハ病屍ヲ解剖シ病的變狀ヲ點檢ス教科書ハ別課醫學生ニハコエニヒ及ヒピタビルコト氏外科書ヲ用フ(本科生ニハ教科書ヲ用フ)

眼科學

眼科學モ亦治療學ノ一ナレモ概今別ニ一科ヲナスモノニシテ眼ノ疾病ヲ治療スルヲ教フ其法全科ヲ五部ニ大別シ第一部ニ眼窩、淚器、眼瞼、結膜、角膜、鞏膜ノ病、第二部ニ虹彩、毛様體、脈絡膜、硝子體、水晶體ノ病、第三部ニ網膜、視神經及ヒ視官ノ病、弱視及ヒ黑障ヲ云フ、第四部ニ光線屈折及ヒ調節機ノ變常、第五部ニ視官機能ノ診査法、眼鏡、檢眼鏡ノ用法ヲ論シ、每部初ニ眼球ノ解剖的造構及ヒ其生理的官能ヲ講シ、次ニ疾病ノ原因、病理、鑒識、療法等ヲ論シ、傍ヲ實物及ヒ圖畫ニ就テ其病態ヲ示シ、且病者ニ就テ理論ヲ實驗セシム

此教科書ノ如キ成書ノ之ニ適スルモノナキヲ以テ本部外科教授ドクトル、シユルツ氏講本并ニ眼科手録ヲ基本トシ參考ニ供スル書目ハ左ノ如シ

グレイフエ及ヒサイミシユ氏眼科書

シユワイゲル氏眼科書

マエル氏眼科書

産科學

産科學ハ專ラ懷妊産育ノヲヲ教フルモノニシテ講義ノ他孕胎摸形ヲ以テ各生徒ニ妊婦診斷法ヨリ器械ノ用法及ヒ手術法ヲ演習セシム此教科書ハ別課醫學生ニハシレエデソ氏著産科書ヲ用ヒ(本科用ハ)參考ニハ左ノ書籍ヲ用フ(教科書ヲ用フ)

カールシロキテル氏産科書

ハーケコルナン氏産科書

婦人病學

婦人病學ハ專ラ婦人ニ於テスル所ノ疾病ヲ治療スル學ニシテ理論ノ他内外科臨床講義中ニタイテ之ヲ實驗セシム此參考書ニハ己ニ産科ナカール、シエロ、非デル氏ノ著書ニ原キ教授スルヲ以テ該科モ亦同氏著書ニ從ヒ講述シ間々諸家ノ說ヲ參論スルノミ

調劑學

調劑學ハ醫士ノ記與シタル處方箋ニ照シ藥劑ヲ調製シテ其請求者ニ付與スルノ術ニシテ製藥學中最要ノ一科ナリ專ラ技術ヲ要スレドモ亦學說ヲ缺可ラズ此教科書ニハ「ハーゲル」調劑書同獨逸局法書注解同藥品鑑定書ウヰット、スタイン製藥書ヒルシユ藥品鑑定書等ヲ用ヒ左ノ

諸書ヲ參考ニ供ス

英國局法書

佛國局法書

英國處方書

佛國處方書

調劑要術

藥品學

藥品學ハ各種藥品ノ鑑識及其性分ヲ講究スル學ニシテ之ヲ植物動物
礦物ニ取リ本邦若シハ外國ノ所産ニ就テ一々其品ノ良否ヲ判別セ
シム此教科書ハ「ウヰーリガント藥品學」ベルヒ「貴重藥品顯微鏡撮影圖同
藥用植物銅版圖同藥用植物石版圖」フリュキーゲル「藥品學」ウヰーゲル「藥品
學」等ヲ用キ左ノ諸書ヲ參考ニ供ス

シロフ藥品學

ヘンケル藥用植物

ホフマン、シユルテス日本支那羅甸字書

ウルリヒ英佛羅甸對譯字書

サツチー日本植物名書

ホフマン顯微鏡用法

草木圖說

泰西本草名疏

生藥學

金石學

此ニ要スル金石學ハ鑛學中只單一ナル鑛類ニ關スル者ノミヲ論ズ即
チ製藥學及ヒ藥品學ニハ缺可ラサル一科ナリ之ヲ教授スルニハ化學

製品及藥劑等ノ原品トナスベキ金石ハ必ズ其性状、成分、產地、用法等ヲ詳カニシ且ツ傍ヲ製煉技術ニ要スヘキ諸金石ニ及ボス蓋シ吾邦金石ノ所産未タ詳カナラサル者多シ故ニ其内外産ノ別ナク一々之ヲ生徒ニ示シテ其鑑定法ヲ習ハシム此教科書ハ「コベル」氏金石學ニ原トツキ傍ヲ左ノ諸書ヲ參考ニ供ス

ナウマン氏金石學

ローゼ氏金石學

ウースバック氏金石學

製藥化學

製藥化學ハ普通化學ト異ニシテ專ラ醫學上緊要ノ製品ヲ化學的純淨ニ製スル方法ヲ教授スルモノナリ而シテ此學ハ廣ク諸般ノ學殊ニ萬有學ニ涉及スルヲ以テ敢テ初學ノ了解シ能ハサル所ナリ故ニ此學ノ製

藥學末期ニ設ケアルモ生徒其深奥ヲ了セシメンガ爲メナルヲ以テ先化學ヲ始トシテ物理學分析學金石學其他動植物學ノ如キ諸科ヲ精細熟了セシメ以テ之レガ介助トナシ其學術ノ基礎大本トナス可キナリ故ニ此學ヲ講スルニ當ツテ引用參考スルノ書ハ左ノ如シ

ムスプラット氏百工化學書

ポイレー氏百工化學書

ワグネル氏百工化學書

フリユッキーゲル氏製藥書

ツフロス氏製藥書

ウイッスタイン製藥書

ドラーゲンドルフ氏製藥書

グラハムオット氏化學書

グロップベザテツ氏化學書

ビュヒ子ル氏化學書
 ホイマン氏化學書
 ヒーデルシム氏製藥試驗書
 ヴフロス氏製藥試驗書
 モーレル氏製藥試驗書
 ハーゲル氏製藥試驗書
 ハーゲル氏獨逸局方啓蒙
 モーレル氏液量分析書
 フレゼニユウス氏液量分析書
 ローゼー氏液量分析書

植物學 動物學

植物學ハ分ツテ四目トナス曰植物外貌學曰植物解剖學曰植物生理學

曰藥用植物學是ナリ其外貌學ハ根莖花實ノ如キヲ論述シ而ソ專ラ實
 物ヲ示ス次テ解剖學及藥用植物學ニ及フ其解剖學ハ根莖花實核仁等
 ノ諸器官ノ造構及ヒ其成分ヲ詳論シ顯微鏡或ハ試驗藥ヲ用非之ヲ仔
 細ニ指示ス藥用植物學ハ自然綱目ニ從ヒ萬種ノ植物ヲ類別シテ科屬
 ナ分チ其製藥學上ニ關係アルモノハ更ニ形狀及成分產地等ヲ論究シ
 其實物ヲ得易キ者ハ採テ之レヲ親示シ其得難キモノハ圖畫腊葉ヲ用
 ヒテ之ヲ教授ス植物生理學ハ榮養類化排泄長育刺戟生植等ノ作用ヲ
 詳論シ以テ其榮枯ノ理ヲ明カニス

動物學モ亦分ツテ二目トス曰藥用動物學曰動物總論是ナリ藥用動物
 學ヲ製藥學生徒ニ授クルニハ亦自然綱目ニ從ヒ諸動物ヲ類別シ其製
 藥ニ有用ナル動物ハ殊ニ其舉動形狀產地等ヲ論シ之ニ示スニ剝製骨
 骸藥品圖畫顯微鏡製品等ヲ以テス動物總論ハ解剖生理ヲ概論シ以テ
 其造構及ヒ其生活スル所以ノ理ヲ知ラシム又醫學生徒ニ授クル醫科

動物學アリ亦自然綱目ニ由テ禽獸蟲魚及ヒ甲介ノ族ヲ類別シ或ハ醫藥ヲ出シ或ハ人畜ニ寄生セル者ヲ一括シテ醫科ニ關係アル所ヲ詳論シ之ニ示スニ剝製骨格圖書藥品顯微鏡製品等ヲ以テス然ルニ動物總論ヲ醫學生徒ヘ講授セザル者ハ別ニ生理解剖ノ學科アレハナリ

左ノ諸書ヲ以テ參考ニ供ス

フリユッキーゲル氏藥用植物學

ベルヒ氏藥用植物學

ヒルゲンンドルフ氏藥用植物學講本

ヒルゲンンドルフ氏醫科動物學講本

アールボルヒ氏醫科動物學講本

アールボルヒ氏藥用植物學講本

アイヒレル氏植物綱目學

ガツクス氏植物生理學

ガツクス氏植物解剖學

ロエニス氏應用植物學

ロエニス氏應用動物學

トーマー氏普通植物學

シュードレル氏博物書

サハチエ氏日本植物書

テウンベルヒ氏日本植物書

シーボルト氏日本植物書

シーボルト氏日本動物書

エーゲル氏藥用動物學

ロエカルト氏人体寄生生物論

キーヘル氏動物全書

トロツセル氏動物學

シラウス氏動物學
 トーメー氏普通動物學
 キュビエル氏動物書
 本草綱目啓蒙
 本草綱目
 本草圖譜
 秘傳花鏡
 淵鑑類函
 大和本草
 和漢三才圖繪
 泰西藥物考
 毛詩名物攷
 片玉六八本草

草木圖說
 物品識名
 植物啓原
 李善蘭植物學
 博物新編
 觀文獸譜
 觀文禽譜
 千蟲譜
 蟲譜圖說
 鹿麝考
 本朝食鑑
 和蘭藥鏡
 魚譜

第六章

學年及學期

第一條

學年ハ十二月一日ニ始マリ翌年十一月三十日ニ終ル

第二條

醫學本科及預科生徒學期ハ十二月一日ヨリ翌年五月三十一日ニ至ル
ナ冬學期トシ六月一日ヨリ十一月三十日ニ至ルナ夏學期トス

第三條

別課醫學生徒及製藥學生徒學期ハ一月八日ヨリ四月三十日ニ至ルナ
冬學期トシ六月二日ヨリ十一月三十日ニ至ルナ夏學期トス

第四條

各生徒夏學期ノ授業時間ハ午前第七時ヨリ始メ冬學期ノ授業時間ハ
午前第八時ヨリ始ム

第七章

休業期日

第一條

夏期休業ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終リ冬期休業ハ十二月廿
四日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第二條

毎定期試業前三週間授業ヲ止メ生徒ニ復習ノ暇ヲ與フ每試業後一日
間休業トス

第三條

毎月日曜日及第一日ヲ休業トス

第四條

定例ノ祭日祝日ハ休業トス

孝明天皇祭

一月三十日

紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月二十日
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

第八章

入學

第一條

預科ニ入ルノ生徒ハ年齡十四年以上二十年以下ニシテ第六條ノ試業科目ヲ及第シタル者トス

第二條

預科課程ヲ卒業セシ者或ハ之レニ齊シキ學力アル者ハ試業ノ上本科ニ入ルヲ許ス

第三條

預科生徒入學ノ期ハ毎年一回即チ十一月ニ於テス

第四條

試業適應入學スル者ハ保證人ノ證書ヲ出サシム
但保證人ハ東京住居ノ戸主ニ限ル

第五條

別課醫學生徒及製藥學生徒ハ年齡十八年以上ニシテ第六條ノ試業科目及第スル者トス
但別課醫學生徒ハ毎年二回即五月十一月製藥學生徒ハ毎年一回即十一月入學ヲ許ス

第六條

入學試業科目

科目	醫學預科	別課醫學	製藥學
讀書	日本外史	史記白文訓點講義	日本外史講義
算術	分數小數比例	分數比例	分數比例
獨逸學	作文反譯		英佛及獨逸學ノ内素讀
書取	獨逸文	真片假名交リ文章	
体格檢査			

第七條

入學願書履歷書證書式等

願書式

府 縣 郡 區 町 村 何 番 地
 何 縣 何 國 郡 何 町 何 番 地
 醫學預科志願 籍族何誰 長三男

別課醫學志願

何 誰

製藥學志願

何年何月幾日生

何年何ヶ月

宿所

履歷書式

履歷書

和漢學

書名何々

右何年何月ヨリ何年何月迄
何學校又ハ何誰ニ就テ卒業讀

和洋數學

分數比例及ヒ何々迄

右何年何月ヨリ何年何月迄
何學校又ハ何誰ニ就テ修業

英佛獨逸學

書名何々

右何年何月ヨリ何年何月迄
何學校又ハ何誰ニ就テ講習
右之通リニ候也

籍族何誰長三男

何

誰

何年何月幾日

何年何月幾日生

何年何ヶ月

右用紙美濃紙へ本人自書スヘシ

證書式

入學證書

私儀別課醫學志願ニ付御部へ入學仕候上ハ御規則等堅ク可相守候
仍テ證書如件

府縣何國區何町何番地

籍族何誰長三男

何

誰

何年何月幾日生

何年何ヶ月

宿所

右之者入學御差許之上ハ本人身分之儀私一切引受可申候仍テ證書如件

宿所

籍族

何年何月幾日

證人

何誰

印

東京大學醫學部

御中

第九章

試業及學級進退

第壹節 通則

第一條

醫學本科預科生徒ハ冬夏各學期ノ終リニ試業ヲ行ヒ學業ノ進否ヲ驗シテ其等級ヲ定ム

但數回ノ試業ニ學力ノ進歩セサル者ハ退學セシムルコトアルヘシ例ヘハ二年間同級ニ止リ若シクハ定期試業ニ四回四以下ノ點數ヲ得ル者ノ如シ

第二條

別課醫學生徒ハ第一期ノ終ニ於テ試業ヲ行ヒ及第セザル者ハ更ニ全期ノ學科ヲ復習セシメ再ヒ落第スル者及疾病事故アリテ此試業ニ欠席スルコト二回ニ及フ者ハ退學セシム

第三條

製藥學生徒ハ每期ノ終リニ於テ試業ヲ行ヒ學業ノ進否ヲ驗シテ其等

級ヲ定ム

第四條

醫學本科生徒及ヒ別課醫學生徒ハ第四期ノ終リニ於テ各理科試業ヲ行フ

第五條

各生徒全期ノ學科課程ヲ卒リタルハ則チ大試業ヲ行ヒ及第セシ者ニハ卒業證書ヲ與フ

第貳節 醫學本科生理科試業規則

第一條

東京大學醫學部ニ於テ第四學期ノ終リ物理學化學解剖學及生理學ノ四科ニ就テ醫學本科生ヲ試驗ス之レヲ醫學理科試業ト稱ス

第二條

前條ニ掲グル四科ノ試業ハ其擔任ノ教授タル試業委員之レテ施行ス

第三條

試業時間ハ生徒壹名ニ付毎科十五乃至三十分時ヲ要ス

第四條

試業ノ經過ニ就テハ帳簿ヲ製シ毎科并全科ノ成績ヲ上中下ニ分チ之レニ登錄ス

全成績ハ平均法ニ由テ各科ノ成績上ヨリ之レヲ得ル即下チ一點トシ中チ二點トシ上チ三點トス

第五條

二科ノ成績ニ於テ下ノ點ヲ得ルモノハ該試業チ及第セザルモノトス
斯ノ如キ場合ニ於テハ半年ノ後其全科ノ再試業ヲ施スベシ然ルニ其成績尙ホ同等ナルモノハ該學科成熟ニ不適當ニシテ且其精神モ亦到ラザルモノト見做スベシ併生徒若シ初發ヨリ順次ヲ經テ學ハント欲

セハ即チ五等本科ノ學科ニ復シテ逐次ニ勤學スルコトヲ允許スベシ

第六條

各生徒ハ當部ノ告知セル試業定期ヲ遵守スベシ若シ事實止ムチ得ザルノ理由ナクシテ違背スルモノハ當部ニ於テ教授ヲ受クル權理ヲ失フモノトス

第七條

若シ疾病其他ノ事故アリテ試業ノ期ニ後ル、ト雖モ試業委員其情實判然タルヲ認可スルモノニミ格外ノ試業ヲ許可スルコトアルベシ

第八條

醫學理科試業ハ毎歲十一月ノ終リトシ本科生ノ教場ニ於テ各日大凡八名ノ試業ヲ施行ス

第九條

委員ハ試業終レハ直チニ相會ンテ其成績ヲ定メ同日之レヲ生徒ニ報

告ス

第十條

該科試業ノ成績ヲ得タルモノニハ左式ノ證書ヲ與フ
證書式後章ニ掲ク

第三節 醫學本科生卒業試業規則

第一條

東京大學醫學部ニ於テハ後章ニ掲載セル醫學試業ノ各科目ヲ及第スル生徒ニ醫學士ノ稱號ヲ與フベシ

第二條 試業委員

醫學試業ハ東京大學醫學部醫學本科生徒ノ教授ヲ以テ試業委員トシテ之ヲ施行セシムベシ

第三條 試業時期

試業ハ毎歲二月ニ始メ六月ニ終リ其間五ヶ月トス然レモ生徒試業ヲ申請スルハ遅クモ一月中旬ヨリ後ルベカラス若シ此期ニ後レ申請スル者ハ不得止遅延シタルノ情實判然タルニ非レハ之ヲ許可セザル可シ

但本章定期内ニ於テ試業ヲ終ラザル科目アルキハ次年ニ於テ其科
ノ試業ヲ受クルヲ得可シ

第四條 試業科目

全試業ヲ三大科目ニ區別ス

第一 解剖學及生理學試業

第二 外科及眼科試業

第三 内科及産科試業

此試業ヲ請フ者ハ後來醫學ノ何科ヲ専門トスルニ拘ラス右ニ掲クル所ノ科目順序ニ從ヒ各科ノ試業ヲ受クルヲ要ス

第五條 第一解剖學及生理學試業

解剖學及生理學ハ二人ノ試業委員各其擔任ノ學科ニ就テ試驗ス
此試業ヲ區別シテ解剖學試業生理學試業トス而シテ試業時間ヲ四期ニ
分チ其三期ニ於テハ解剖學ヲ試驗シ一期ニ於テハ生理學ヲ試驗ス
但每期四人以下ノ生徒ヲ一組トナシ試業スルヲ得ベシ
解剖學試業方法左ノ如シ

一 第一期ニ於テハ生徒抽籤ノ法ヲ以骨論及内臟論ノ問題ヲ定メ而
シテ其說明ニ要スル所ノ製造品〔プレート〕ニ就テ各生徒ヲ試驗ス
但毎歲試業期ノ始ニ於テ試業委員ハ預メ十二乃至十五ノ骨論及
内臟論ノ問題ヲ撰定シテ生徒ノ抽籤ニ備フベシ問題ハ試業前ニ
別紙第一號ニ掲

二 第二期ニ於テハ第一期ニ於ケルガ如ク生徒抽籤法ニ由テ組織學
ノ問題ヲ定メ其試業ニ適當スル製造品〔プレート〕ヲ顯微鏡ニ就テ說明

セシメ生徒ノ學識ヲ試驗ス

但組織學ノ問題十乃至十二モ亦試業期ノ始ニ於テ試業委員之ヲ
撰定スヘシ問題ハ試業前ニ別
紙第二號ニ掲ク

三 第三期ニ於テハ死体或ハ生体ニ就テ局所解剖ヲ試驗ス
生理學試業ニ於テモ亦各生徒抽籤シテ得ル所ノ生理學問題ニ就テ直
チニ其學識ヲ試驗ス

但生理學ノ問題大約二十ヲ定ムルハ解剖學ノ問題ヲ定ムルノ方法
ト同シ問題ハ試業前別
紙第三號ニ掲ク

解剖學試業ノ成績ハ解剖學三期試業ノ成績ニ因テ之ヲ評決シ又解剖
學及生理學試業ノ全成績ハ解剖學及生理學ノ兩成績ニ因テ之レヲ評
決ス

解剖學或ハ生理學試業ニ於テ丁又ハ戊ノ成績ヲ得ルモノニハ該試業
委員ノ決議ニ因テ二週乃至四週間ノ延期ヲ與ヘ其科ノニ再試業ヲ受

ケシムヘシ
 解剖學及生理學ノ試業ニ於テ「乙」以上ノ成績ヲ得ルモノニ限リテ次章
 ニ掲載セル科目ノ試業ヲ受クルヲ許ス
 解剖學及生理學ノ試業ヲ經タル者ニハ試業委員ヨリ左式ノ假證書ヲ
 與フ

籍族

何

誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日迄施行セシ解剖學及生理學試業ヲ經テ
 左ノ成績ヲ得タリ

何 甲乙丙丁戊等ノ字
 何 ヲ埋ム以下倣之

骨論及內臟論

組織學

局所解剖學

右三科平均ノ成績

生理學

解剖學及生理學全成績

何
 何
 前書之通相違無之候事

試業委員記名

年 月 日

附記 次章ニ掲グル科目ノ試業ヲ請フモノハ此證書ヲ得タル日
 ヨリ一週ノ内ニ於テ之ヲ其擔任ノ試業委員ニ出ス可シ

第六條 第二外科及眼科試業

外科及眼科試業ハ病床實驗的試業ト論理的試業トニ區別ス
 病床實驗的試業ハ醫院外科ノ部ニ於テ之レヲ施行スヘシ
 此試業中各生徒ニ一週間二人ノ患者ヲ施療セシム

試業ノ第一日及第二日ニハ生徒一人ニ外科患者一人ヲ授ケ試業委員

ノ目前ニ於テ診察シ其原因診斷預後及治方等ヲ説明シ且其發見セル所ノ事ヲ翌日迄ニ病床日記ニ登錄セシメ其後六日間ハ試業委員ト共ニ自己擔當ノ患者ヲ廻診シ病ノ經過ヲ病床日記ニ掲ケ七日ノ後ニ於テ自己ノ考案ヲ病床日記ニ附記シテ之ヲ試業委員ニ出サシム

生徒ハ此試業中各臨床講義并ニ病室廻診ニ陪席スベシ此際試業委員ハ外科及眼科諸病ヲ診斷セシメ其學識ヲ試驗シ尙ホ眼科ノ學力ヲ試業スル爲ニ生徒ニ眼病者ヲ授ケ之ヲ檢査診斷セシメテ其病床日記ヲ作ラシム

外科論理的ノ試業ハ病床實驗的試業ト同週内ニ於テ別ニ時刻ヲ定メテ之ヲ施行スベシ

此試業ノ爲メ抽籤ニ由テ定ムル所ノ三箇ノ問題ヲ與ウ即チ其一ハ外科總論一ハ外科各論一ハ眼科學ヨリ撰フ者トス

試業委員ハ毎歲撰定スル所ノ問題ニ因テ試業ヲ施行スルコト前章ノ

如シ問題ハ試業前別紙第
四號ニ之レヲ掲ク

外科及眼科試業ノ成績ハ外科病床實驗的及眼科論理的並眼科的試業ノ三成績ニ依テ之レヲ定ム此試業科目中ノ一科ニ於テ不充分即チ「戊」或ハ「丁」ノ成績ヲ得ルモノハ試業委員定ムル所ノ期限内ニ於テ該科ノ再試業ヲ受クルヲ要ス然レトモ「戊」或ハ「丁」ノ全成績ヲ得ルモノハ次章ニ掲載セル科目ノ試業ヲ受クルヲ許サズ

外科及眼科試業ヲ經タル者ニハ試業委員左式ノ假證書ヲ與フ

籍 屬

何 誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日迄施行セシ外科及眼科試業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

外科病床實驗

外科論理

眼科

外科及眼科全成績

前書之通相違無之候事

年 月 日

試業委員記名

附記 次章ニ掲クル科目ノ試業ヲ請フモノハ此證書ヲ得タル日ヨリ一週ノ内ニ於テ之ヲ其擔任ノ試業委員ニ出ス可シ

第七條 第三、内科及産科試業

内科及産科試業ヲ區別シテ内科産科及藥劑學試業トス

内科試業モ亦病床實驗的ト論理的トニ區別ス此試業ハ第六條ニ掲載スル外科及眼科試業ヲ施行スル方法ト異ナルコトナシ

産科試業ハ論理ヲ以テス但シ適當ノ患者アレハ別ニ定期ヲ設ケテ實施試業ヲ施行スル者トス

籍 族

何 誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日迄施行セシ内科及産科試業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

内科病床實驗

藥劑學試業モ亦別ニ定期ヲ設ケテ施行ス而シテ生徒ノ學力ヲ試業スル

爲メ藥劑學ノ問題並其種々ノ處方ニ就テ試業スヘシ

内科及産科試業ノ成績ハ内科病床實驗的、内科論理的、産科及藥劑學試業ノ四成績ニヨリテ之ヲ定ム

右四科目ノ一ニ於テ「戊」或ハ「丁」ノ成績ヲ得ル者ハ其科ノ再試業ヲ受ケルヲ要ス

内科及産科試業ヲ經タル生徒ニハ試業委員左式ノ假證書ヲ與フ

何 何 何
 何 何 何
 何 何 何
 前書之通相違無之候事
 年月日
 內科及產科全成績
 試業委員記名

第八條 試業全成績ノ評決

醫學試業ノ全成績ハ解剖學及生理學試業、外科及眼科試業、內科及產科試業ノ三大科目ノ成績ニ因テ評決スル者トス

第九條 通則

試業委員ハ各科試業ノ成績ヲ評決スルニ甲乙丙丁戊ノ五格ヲ用ユヘ

第十條

試業大科目中ノ各科ニ於テ得ル所ノ成績ヲ定ムルニハ算法ニ由ルヲ法トス即チ試業成績ヲ點數ニ由テ定ムル左ノ如シ

- 甲 五點
- 乙 四點
- 丙 三點
- 丁 二點
- 戊 一點

算法ニ因テ平均數ヲ決スル左ノ如シ

一、五乃至二、四ノ點數ヲ得ルキハ則チ二點トシ二、五乃至三、四ノ點數ヲ得ルキハ則チ三點トシ三、五乃至四、四ヲ得ルキハ則チ四點トス餘ハ之ニ倣フ

生徒三大科目及其各科ニ於テ盡ク乙以上ノ成績ヲ得ルニ非サレハ全

成績ニ於テ甲ヲ與ヘス

第十一條

各科試業ニ「戊」ノ成績ヲ得ルモノハ四週間「丁」ノ成績ヲ得ルモノハ二週間以上復習シテ後再試業ヲ受クルヲ許ス

但再試業ヲ受ケタル科目ニ就テハ丙ヨリ上ノ成績ヲ與ヘス

第十二條

一箇ノ試業科目ヲ二回復習シテ試業ヲ受ケ及第セサルモノハ其年ニ於テ復タ試業ヲ受クルヲ許サズ

但再度ノ試業ヲ爲スルハ全科ノ再試業ヲ受ケシムベシ

第十三條

生徒試業委員ヨリ與フル所ノ各科目ノ試業ハ遲滞ナク從事スベシ

第十四條

第二回ノ試業ヲ受ケ及第セサル者ハ更ニ試業ヲ受クルヲ許サス

第十五條

生徒試業ヲ受ントスルモノハ其旨ヲ書シテ監事ニ申出ベシ又各科目ノ試業ヲ終ルルハ其都度之ヲ監事ニ届出ベシ

第十六條

生徒既ニ試業ヲ申請セシ後疾病事故アリテ試業期中ニ全ク試業ヲ受ル能ハズト豫料スルハ速ニ其旨ヲ監事ニ届出ベシ

但卒業定期ニ至リ病疾事故等ニテ再三試業ヲ受ケサル者ハ退學セシムルヲアルベシ

第十七條

生徒若シ病ニ罹リ試業定日ニ出席シガタキトキハ主治醫ノ診斷書ヲ添テ當日午前第七時迄ニ監事ニ届出ベシ

第十八條

事實止ムヲ得ザルノ原因アルニ非ザレハ一科ノ試業ヲ受ケ他ノ試業

ニ移ルノ日限ハ二週間ヲ踰ユ可ラズ

第十九條

右試業定則ニ違背スル生徒ハ其年ニ於テ試業ヲ受クルヲ許サス
以上掲載スル所ノ規則ハ東京大學醫學部ニ於テ制定シ文部卿ノ允可
ヲ經タル所ノモノナリ

證書式ハ後章ニ掲ク

第四節 別課醫學理科試業規則

第一條

東京大學醫學部ニ於テ後章ニ掲クル規則ニ由リ別課醫學生徒第四學
期ノ終リニ於テ醫學理科試業ヲ行ヒ及第スルモノニハ證書ヲ授ケ始
メテ次期ノ學科ヲ受クルヲ許ス

第二條

此試業委員ハ別課醫學生徒ノ教授タルモノヨリ撰定スルヲ例トス

第三條

試業時期ハ毎年五月及ヒ十二月ニ於テス

第四條

試業科目ハ左ノ五項トス

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 動植物學
- 第四 解剖學
- 第五 生理學

第五條

此試業ハ盡ク口演ニシテ同時ニ試業ヲ受クル生徒ノ員數ハ試業委員
之ヲ定ムヘシ但他生徒ノ傍聽ヲ禁ス

第六條

各科ノ試業委員ハ各其擔任スル所ノ學科ニ就テ問題ヲ設ク但一週間十二時以上ノ講義ヲ授ケタル學科ニハ五題六時間ヨリ四時間ノ講義ヲ授ケタル者ニハ三題三時間ヨリ二時間ノ講義ヲ授ケタル者ニハ二題ノ間ヲ設クルヲ通則トス

第七條

試業委員ハ各科試業ノ成績ヲ評定スルニ甲上乙上丙上丁上戊上ノ十格ヲ用フベシ

第八條

各科試業ノ成績ハ左ノ點數ニ由テ定ムルヲ法トス

- 甲上 十點
- 甲下 九點
- 乙上 八點
- 乙下 七點
- 丙上 六點
- 丙下 五點

丁上 四點

丁下 三點

戊上 二點

戊下 一點

第九條

物理學化學動物學ノ三科中ニ就テ二個以上ノ戊ノ成績ヲ得タルモノト解剖生理ノ二科ニ於テ一個ノ戊ヲ得タルモノハ共ニ落第トス

第十條

生徒若シ病ニ罹リ試業當日ニ出頭シガタキハ主治醫ノ診斷書ト保證人ノ添書トヲ以テ速ニ届ケ出ツヘシ又止ヲ得サル事故アリテ試業定日ニ出席スル能ハサルキハ試業委員ノ許可ヲ經テ同期ノ生徒中ニテ試業ノ時日ヲ操換ルコトヲ得ベシ

第十一條

生徒再試業ヲ受ケ及第セザルモノ及ヒ止ヲ得サル事故アリテ試業ヲ受ケザルコト三回ニ及フモノハ退學セシムヘシ

第十三條

確定シタル試業定日ノ外臨時ニ試業ヲ受クルコトヲ許サス

第十三條

試業ヲ經テ及第シタルモノニハ左ノ證書ヲ與フ

證書式後章ニ掲ク

第五節 別課醫學生徒卒業試業規則

第一條

東京大學醫學部ニ於テ後章ニ掲載セル醫學試業ノ各科目ヲ及第スル生徒ニハ醫學卒業ノ證書ヲ與フベシ

第二條 試業委員

醫學試業ハ東京大學醫學部別課醫學生徒ノ教授ヲ以テ試業委員トシテ之ヲ施行セシムベシ

第三條 試業時期

試業ハ每歲五月及十一月ニ始メ六月及翌年一月ニ終ル然レモ生徒ヨリ試業ヲ申請スルノ期ハ遲クモ每試業期前三十日ヨリ後ル可カラズ

第四條 試業科目

全試業ヲ三大科目ニ區別ス

第一 解剖學組織學及生理學

第二 外科論理病理學及藥劑學

第三 眼科産科外科内科病床實驗

此試業ヲ請フ者ハ後來醫學ノ何科ヲ専門トスルニ拘ラズ右ニ掲クル所ノ科目順序ニ從ヒ各科ノ試業ヲ受クルヲ要ス

第五條 第一解剖學組織學生理學試業

此試業ヲ區別シテ解剖學試業組織學試業生理學試業トス但二人以上六人迄ヲ一組トシテ同時ニ試業スルヲ得ヘシ

解剖學試業ニ於テハ生徒抽籤ノ法ヲ以テ問題ヲ定メ實物ニ就テ局所
 ノ解剖ヲ試験ス
 組織學試業ニ於テハ生徒抽籤シテ得ル所ノ問題ニ就テ之ヲ試験シ或
 ハ實物ニ就テ之ヲ試業スルコトアルベシ
 生理學試業ニ於テモ亦生徒抽籤シテ得ル所ノ問題ニ就テ之レヲ試験
 ス
 解剖學及ヒ生理學試業ノ成績ハ第四期理科試業ノ成績ト參互シテ之
 ナ評決シ又解剖學組織學生理學試業ノ全成績ハ解剖學組織學及ヒ生
 理學ノ三成績ニ因テ之ヲ評決ス
 解剖學組織學及ヒ生理學ノ試業ニ於テ丁以上ノ全成績ヲ得ルモノニ
 ハ左式ノ證書ヲ與ヘ次章ニ掲載セル科目ノ試業ヲ受クルヲ許ス但戊
 ノ全成績ヲ得ル者ニハ後期ニ於テ再試業ヲ許ス可シ
 各科目中ノ一科ニ於テ點數一〔戊〕ニ滿タサルモノハ及第スルヲ得セシ

メ

籍 族

何 誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日ニ至リ施行セシ解剖學組織學生理學試
 業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

何 甲乙丙丁戊等ノ字ヲ
 何 埋ム以下之レニ倣フ

何 解剖學

何 組織學

何 生理學

解剖學組織學及生理學全成績

右試業ノ成績ニ因リ此證書ヲ與フ

年 月 日

試業委員連名印

附記此證書ヲ得シ者ハ其日限ヨリ三日内ニ左ニ掲クル科目ノ試業

委員ニ此證書ヲ出ス可シ

第六條 第二外科論理病理學及藥劑學試業

外科論理的ノ試業ハ抽籤ニ由テ定ムル所ノ二様ノ問題ヲ與フ即チ其一ハ外科總論一ハ外科各論ノ中ヨリ撰フ者トス

病理學試業ハ抽籤ニ由テ定ムル所ノ二様ノ問題ヲ與フ即チ其一ハ病理總論一ハ病理各論ノ中ヨリ撰フ者トス

藥劑學試業ハ問題又ハ種々ノ處方ニ付テ試業スヘシ

試業委員ハ每期撰定スル所ノ問題ニ因テ試業ヲ施行スルヲ前條ノ如シ

外科論理病理學及藥劑學試業ノ全成績ハ外科論理病理學及藥劑學試業ノ三成績ニ由テ評決スヘシ

外科論理病理學及藥劑學試業ニ於テ丁以上ノ全成績ヲ得タル者ニハ左式ノ證書ヲ與ヘ次章ニ掲載セル科目ノ試業ヲ受クルヲ許ス但戊ノ

全成績ヲ得ル者ニハ後期ニ於テ再試業ヲ許スヘシ
各科目中ノ一科ニ於テ點數一〔戊〕ニ滿タサルモノハ及第スルヲ得セシメス

籍 族

何 誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日ニ至リ施行セシ外科論理病理學及藥劑學試業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

外科論理

病理學

藥劑學

外科論理病理學及藥劑學全成績

右試業ノ成績ニ因リ此證書ヲ與フ

年月日

試業委員連名印

附記此證書ヲ得シ者ハ其日限ヨリ三日内ニ左ニ掲ル科目ノ試業委員ニ此證書ヲ出ス可シ

第七條 第三、眼科産科外科内科病床實驗試業

眼科試業ハ抽籤ノ法ニ由リ問題ヲ定メ之ヲ試驗ス
産科試業モ亦抽籤ノ法ニ由テ問題ヲ定メ之ヲ試驗ス
外科及内科病床實驗ハ醫院患者ニ就テ之ヲ施行スヘシ
此試業法ハ各生徒ニ外科及内科患者ヲ授ケ試業委員ノ目前ニ於テ診察シ其原因診斷預後及治方等ヲ説明シ且其發見セル所ノ事ヲ翌日迄ニ病床日記ニ登錄セシメ而後若干日間試業委員ト共ニ自己擔當ノ患者ヲ廻診シ病ノ經過ヲ病床日記ニ掲ケ期日ノ後ニ於テ自己ノ考案ヲ其病床日記ニ附記シテ之ヲ試業委員ニ出サシム
生徒ハ此試業中各臨床講義ニ陪席スヘシ此際試業委員ハ生徒ニ外科

及内科患者ヲ診斷セシメ其學識如何ヲ試驗ス

眼科産科外科内科病床實驗試業ノ成績ハ眼科産科外科内科各病床實驗ノ四成績ニ由テ之ヲ定ムヘシ

眼科産科外科内科病床實驗ノ試業ニ於テ丁以上ノ全成績ヲ得タル者ニハ左式ノ證書ヲ與フ但戊ノ全成績ヲ得タル者ニハ後期ニ於テ再試業ヲ許スヘシ

各科目中ノ一科ニ於テ點數二戊ニ滿タサルモノハ及第スルヲ得セシメス

籍族

何誰

何年何月幾日生

右者何年何月幾日ヨリ幾日ニ至リ施行セシ眼科及産科外科内科病床實驗試業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

何 何 何 何

眼科
產科

外科病床實驗
內科病床實驗

眼科產科外科內科病床實驗全成績

右試業ノ成績ニ因リ此證書ヲ與フ

年月日

試業委員連名印

第八條 試業全成績ノ評決

醫學試業ノ全成績ハ解剖學組織學生理學試業外科論理病理學及藥劑學試業眼科產科外科內科病床實驗試業ノ三大科目ノ成績ニ因テ之レヲ評決スル者トス

第九條 通則

試業委員ハ各科試業ノ成績ヲ評決スルニ甲乙丙丁戊ノ五格ヲ用ユヘ

第十條

試業三大科目中ノ各科ニ於テ得ル所ノ成績ヲ定ムルニハ算法ニ由ルヲ法トス即チ試業成績ヲ點數ニ由テ定ムル左ノ如シ

- 甲 五點
- 乙 四點
- 丙 三點
- 丁 二點
- 戊 一點

算法ニ因テ平均數ヲ決スル左ノ如シ

一、五乃至二、四ノ點數ヲ得ルハ則チ二點トシ二、五乃至三、四ノ點數ヲ得ルハ則チ三點トシ三、五乃至四、四ヲ得ルハ則チ四點トス餘ハ之レニ倣フ

生徒三大科目ノ試業ニ於テ三科共ニ甲ヲ得ル者ト三科中二甲一乙ヲ得ル者トニハ全成績ニ於テ甲ヲ與ラ他ハ末ニ掲ル表ニ詳ナリ

第十一條

三大科目中ノ一科ニ於テ戊點ノ成績ヲ得テ及第セサル者ハ次回ノ試業期ニ再試業ヲ行ヒ再ヒ戊點ヲ得ル者ハ更ニ試業ヲ申請スルモ之ヲ許サス

例ヘハ(第二科目)ノ試業ニ於テ落第スル者ハ次回ニ第一科目ヲ試験セス直ニ第二科目ヲ再ヒ試業スベシ第一第三科目ニ於テ落第スル者モ亦之ニ倣フ

第十二條

三大科目中ノ一科合格ノ評點ヲ得其他ノ二科目ニ於テ止ムコトヲ得ザル事故アリテ試業ヲ受クル能ハザル者次回ノ試業期ニ試業ヲ申請スル者ニ限リ他ノ二科目ヲ試験スルコトアルヘシ但既ニ試業ヲ經タル一

科ハ假令再試業ヲ請フト雖用之ヲ施行スルコトナシ

第十三條

第二回ノ試業ヲ受ケ及第セザル者ハ更ニ試業ヲ受クルヲ許サス

第十四條

生徒試業ヲ申請スル者ハ其旨ヲ書シテ監事ニ申出ヘシ又各科目ノ試業ヲ終ルキハ其都度之ヲ監事ニ届出ヘシ

第十五條

生徒既ニ試業ヲ申請セシ後疾病事故アリテ試業期中ニ全ク試業ヲ受ル能ハスト豫料スルトキハ速ニ其旨ヲ監事ニ届出ヘシ但卒業定期ニ至リ疾病事故等ニテ再三試業ヲ受ケサル者ハ退學セシムルコトアルヘシ

第十六條

生徒若シ病ニ罹リ試業定日ニ出席シ難キ者ハ主治醫ノ診斷書ヲ添テ

當日午前第七時迄ニ監事へ届出ヘシ但三日ヲ經テ尙ホ出席シ難キ者ハ該試業期中ニ試業ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條

事實止ムヲ得サルノ原因アリテ試業委員ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ一科ノ試業ヲ受ケ他ノ試業ニ移ルノ日限ハ三日ヲ踰ユベカラス

第十八條

以上ノ試業定則ヲ遵守セザル生徒ハ此試業期中試業ヲ受クルヲ許サス

甲 乙

甲 乙 丙 丁 戊

甲 乙 乙 丙 丙 丁 戊 丁 丙 丙

甲 乙 丙 乙 丁 丙 戊 丁 丙 戊 丁 戊 戊 甲 甲 乙 甲 乙 甲 乙 丙 乙

甲 甲 甲 乙 甲 乙 甲 乙 丙 乙 丙 丁 丁 戊 甲 甲 甲 甲 甲 乙 甲 甲 甲 乙

丙

戊 丁 丁 丙 丙 戊 丁 戊 丁 戊 戊 丁 丁

丁

戊 戊 戊 丁 戊 戊 丁 戊 戊 戊 戊

戊

乙 丙 乙 丙 丙 丁 乙 丙 丁 丙 丁 丙

戊 丁 丙 丁 戊 丁 丁 戊 丁 戊 戊

甲甲乙乙丙甲甲乙乙甲乙乙丙 甲乙丙乙丙丁丙丁戊

甲 } 甲
乙 } 乙
丙乙丁丙乙戊丁丙丙乙戊丁丙丙

甲甲 甲乙甲乙乙甲乙丙乙乙丙乙丙乙

甲甲 甲甲甲甲乙甲甲乙乙甲甲乙乙乙

甲甲 甲甲甲甲甲甲甲甲乙甲甲甲甲乙

丙

戊丁戊丁丙丙丁戊戊丁丁戊丁丙戊戊戊丁戊戊丁

丙丁乙丙丙丙乙丁丙丁丙乙丙丙戊丁丙丁丙丙戊丁丁丙丙

甲甲乙乙丙乙乙甲乙乙丙乙乙丙甲乙丙丙乙乙丙丙乙丙丁乙丙丙

甲甲甲甲甲乙乙甲甲甲甲乙乙甲甲甲甲乙乙丙甲甲甲乙乙丙

丁

戊戊戊戊丁戊丁戊戊戊戊丁戊戊戊戊丁戊戊戊 戊戊戊戊戊

戊

戊丁戊丁丁丙丁戊戊丁丁戊戊戊丁

丙丁乙丙丁丙丙丙丁丁丙丁戊丁丙丁丁戊丁丁

甲甲乙乙丙丙乙甲乙丙丙甲乙丙丙丁乙丙丁

第十章

學業證書

學業證書ハ都テ試業ヲ經及第スル者ニ與フル者トス
醫學本科生理科試業證書式

籍族

何誰

何年何月幾日生

右ハ何年何月幾日ヨリ幾日迄施行セシ醫學理科試業ヲ經テ左ノ成績ヲ得タリ

何 解剖學

何 生理學

何 化學

何 物理學

何 全成績

年月日 試業委員記名

醫學本科生卒業證書式

九十二

籍族

何

誰

何年何月幾日生

醫學卒業候事

卒業試業全成績	何	甲乙丙丁戊等ノ文
骨論及内臟論	何	字ヲ埋ム以下做之
局處解剖學	何	組織學
外科病床實驗	何	生理學
眼科	何	外科論理
内科論理	何	内科病床實驗
		藥劑學

號何第醫本

產科何

試業委員

東京大學醫學部教授

誰

何

全

全

全

何

誰

東京大學醫學部綜理

別課醫學生理科試業證書

籍族

九十三

東京大學醫學部試業委員

教授 何 誰

全

全

全

全

年月日

東京大學醫學部綜理 何 誰

第十一章

學位記

第一條

醫學本科生卒業試業ヲ及第スルモノハ醫學士ノ稱號ヲ與フヘシ

第二條

學位證書ハ文部卿ニ申稟シ綜理之ヲ授與スルモノトス其書式左ノ如シ
何誰醫學科ヲ修メ定期ヲ歷テ其業ヲ卒ヘ考試咸完シ乃予カ掌ル所ノ
權ニ據リ授クルニ醫學士ノ位ヲ以テス爾後優待令名ノ此位ニ屬セル
者ハ永ク汝ノ享有ニ歸セン因テ東京大學ノ印ヲ鈐シ予ノ名ヲ署シテ
以テ之ヲ證ス

年月日

東京大學醫學部綜理 何 誰印

東京大學醫學部綜理何誰ノ申稟ヲ領シ證スルニ予ノ名ヲ以テス

文部卿何誰印

第十貳章

教室及實驗場

第一條

凡テ各教場ハ授業時限ノ十五分前後ニ開閉シ該主任者之ヲ掌ル

第二條

凡テ授業時間外及ヒ休業日ニハ濫リニ教場へ入ルヲ許サス

第三條

書籍展覽室ハ休日ノ外毎日正午十二時ニ開キ午後八時ニ閉ツ

第四條

各生徒授業后博物學圖書藥品等ノ覽閱ヲ乞フ者ハ休業日ノ他毎日午後第二時ヲ限リトス

第五條

製藥學教場諸室ハ毎日閉場后并休業日等ハ局員タリトモ都テ出入ヲ許サス且事業ノ都合之レアルモ早出晚退ヲ許サス

第六條

製藥分析室ハ毎日午前第八時ニ開キ午後第四時ニ閉ツ該時限ノ前後ニハ出入スルヲ許サス

但時宜ニ由リ本條ノ時限ヲ伸縮スルコトアルベシ

第七條

解剖演習所ハ概シテ午前三時間トシ休業日及ヒ午后タリトモ篤志ノ者ニハ午后第三時ヲ限リ演習ヲ許スベシ

第八條

解剖學教場顯微鏡演習所ヲ開クハ毎日一時乃至二時間トシ篤志ノ者タリトモ休業日及ヒ定時間外ハ演習ヲ許サス

第十三章

圖書

第一節 典籍掛規則

第一條

本掛所藏ノ圖書ハ教員及ヒ生徒ノ用ニ備フル者トス然レモ部數僅少ノ圖書或ハ參考ニ供スヘキ大部ノ圖書ハ各人ニ貸附スル能ハス故ニ別ニ展覽室ヲ設ケ該室中ニ於テ覽閱ヲ許ス

第二條

各教場ニ於テ必須ノ圖書ヲ借受スルハ毎年二回教員會議ニ付シ其書名ト部數ヲ定ムルモノトス

但シ本條會議ニ決シタル圖書ノ外臨時參考ヲ要スルモノアルモハ一週間ヲ限リ貸附スルコアルベシ

第三條

各教員講義參考ノ爲メ圖書ヲ借用シ得ベシト雖モ拾部ヲ超エベカラ

第四條

生徒所用ノ教科書ハ固ヨリ自辨スベキモノト雖モ之ヲ購求スル能ハザル者ニハ五冊ヲ限リ貸附スルコアルベシ

第五條

都テ圖書ヲ借受スル者ニハ本掛ニ備フル所ノ左ニ掲クル雛形ノ料紙ヲ付シ借受人ヲシテ記名捺印セシム

但シ生徒圖書ヲ借受セント欲セハ預メ其證人ヨリ別ニ保證書ヲ出シ置クベシ

教員醫員借受證

證	
行刊年	
號	第
年	名
月	書
日	部(冊)
姓	卷
名	冊
○	

其裏面

書籍借受證

- 一 表書之書籍借受致シ候ニ付テハ總テ御規則遵守可致候事
- 一 返納定期ノ外ト雖モ臨時御達之節ハ速カニ返納可致候事
- 一 遺失毀損等致候節ハ同様ノ書籍又ハ相當ノ代價ヲ以テ三十日以内ニ必
- 一 返償可致候事
- 一 他人ニ貸與致ス間敷候事

東京大學醫學部御中

外國教員借受證

其裏面	
横文略	横文畧

生徒借受證

證	
行刊年	
號	第
年	名
月	部(冊)
日	卷
姓	
名	
○	

其裏面

書籍拜借證

一 表書之書籍拜借仕候ニ付テハ總テ御規則ヲ遵守可仕候事

一 御規則之期限ニ至レハト先返納可仕候事

一 遺失毀損汚染等仕候節ハ同様ノ書籍又ハ代價ヲ以テ卅日以内ニ必ス返償可仕候事

一 他人へ貸與候儀仕間敷候事

一 臨時御達之節ハ速カニ返納可仕候事

一 退學之節ハ即時返納可仕候事

東京大學醫學部典籍掛御中

第六條

教場用并教員借受ノ圖書ハ毎年十二月生徒借受ノ圖書ハ毎年七月悉皆還納セシム

但シ時宜ニヨリ臨時還納ヲ要スルコトアルベシ

第七條

教員及ヒ生徒ノ借受セル圖書ハ他人へ貸與スルヲ許サス

第八條

借受ノ圖書ヲ紛失或ハ毀損スル者ハ全様ノ書籍或ハ相當ノ代價ヲ以テ三十日以内ニ償ハシム

第九條

圖書ノ出納ハ毎日午前八時ヨリ正午十二時迄トス

第二節 書籍展覽室規則

第一條

展覽室ハ本部所藏ノ圖書ヲ陳列シ教員及生徒ノ展覽ニ供ス

第二條

圖書展覽ノ時限ハ休日ノ外正午十二時ニ開キ午後八時迄トス

第三條

圖書ヲ緝閱セント欲スル者ハ先ツ其書名ト自己ノ姓名ヲ室中ニ備ヘ置所ノ簿冊ニ記載シ該主任者ニ請フテ借覽スベシ

第四條

室内ノ圖書ハ須臾モ室外ニ携出ス可カラス

第五條

圖書ヲ破損シ或ハ汚染スルキハ全様ノ圖書若クハ相當ノ償金ヲ納メシム

第六條

室内ニ於テ亂坐雜談音讀吃烟スルヲ許サス

第七條

讀了スルノ后其書ヲ整頓シ直ニ該主任ニ還納スベシ

第十四章

器械藥品模型標品等取扱規則

第一節 解剖學教場

第一條

解剖及組織學用器械製造品ハ都テ貯藏室ニ備ヘ置クヘシ

第二條

諸器械製造品ハ盡ク名稱番號ヲ附シ之ヲ帳簿ニ記シ種屬部位ニ從テ陳列スベシ

第三條

器械製造品ノ出納ハ該主任ニ限り局員タリハ猥ニ出納スルヲ許サズ

第四條

陳列品破損紛失腐敗スルキハ其由ヲ破損簿ニ録スヘシ

第五條

都テ器械ノ生鏽製造品ノ腐敗セザル様時々注意點檢シ專ラ該室ヲ清潔ニスベシ

第六條

生徒若シ器械製造品等ヲ破損又ハ紛失スルキハ相當ノ代價ヲ辨償セシム

第七條

生徒骨格ノ貸付ヲ乞フ時ハ證人ヨリ證書ヲ出サシメ若シ破損紛失スルキハ相當ノ代價ヲ辨償セシム

第二節 生理學教場

第一條

生理諸器械ヲ蓄藏スルニハ別ニ一室ヲ設ケ之ヲ器械室ト稱ス

第二條

生理諸器械ハ其使用スベキ一室ヲ定メ猥リニ室外ニ移用ス可ラズ殊ニ化學的檢査ヲ要スル室ニ於テハ精巧ナル金屬製諸器械ヲ用フルヲ許サズ

第三條

各器械ヲ使用スルノ后ハ其主任ノ點檢ヲ受ケ速ニ器械室ニ返付スベシ

第四條

假令器械ノ一部ト雖モ之ヲ分テ他ノ用ニ供スルヲ許サズ若シ己ヲ得ザル事故アリテ之ヲ借用スル時ハ必ず生理學教授ノ允可ヲ得ベシ

第五條

諸器械ニハ各箇ニ番號ヲ記スベシ

第六條

器械室ニ備ヘタル各器ニハ其部分ノ名稱所屬ヲ詳記スベシ

但各器ノ精粗用法及ヒ其用ニ適スルヤ否ヲ併記スルモ妨ケナシ

第七條

諸器械ノ表ヲ製シ番號及ヒ第六條ニ掲クル所ノ明細書ヲ附スベシ

但器械破損スル等ノ事アルモ亦之ヲ記載スベシ

第八條

毎學期ノ終リニハ其表目ニ照シテ諸器械ヲ點檢スベシ

但時宜ニヨリ臨時ニ之ヲ點檢スルコトアルベシ

第九條

生理學教場ト演習場ト兩所ニ於テ同時ニ一器械ヲ要スルコトアル時ハ

必ス之ヲ教場ニ讓ルベシ

第十條

他ノ教場ニ於テ生理的器械ヲ借用センコトヲ乞フモノアル時ハ左ノ二

條ヲ示シ貸與スベシ

〔第一〕生理學教場及演習場ニ於テ該品不用ノ時間ニ限ル

〔第二〕第二第三及ヒ第四條ノ意ヲ領承スベシ

第十一條

生理諸器械ハ該場主任ノ者之ヲ管理シ且ツ該器ニ關スル一般ノ諸件

ハ皆其責ニ任スベシ

第三節 生理學教場

第一條

生理學諸器械ヲ貯藏スルガ爲メ別ニ倉庫ヲ設ケ之ヲ生理學器械倉庫

ト稱ス

第二條

器械倉庫ヲ分ツテ六部ト爲ス卽チ第一物性及ヒ動靜ノ部第二音響學ノ部第三光學ノ部第四熱學ノ部第五摩擦電氣學ノ部第六磁石及ヒ觸發電氣學ノ部是レナリ

第三條

每部棚架ヲ具ヘテ其部ニ屬スル器械ニ限リ順次并列スベシ

第四條

假令一時ノ便宜ヲリトモ或ハ一部ニ屬スル器械ヲ他部ノ棚架中ニ藏ムルヲ許サズ

第五條

諸器械殊ニ金屬製ノ品ハ濕氣酸氣等ヲ受ケテ酸化セザル様注意スベシ

第六條

前條ノ注意ニ對シ器皿ニ鹽化加爾叟母ヲ盛り各部ノ棚架中必ス其二皿ヲ置クベシ時候ニ關シテ伸縮アレドモ預メ時期ヲ定メテ鹽化加爾叟母ヲ取換ユベシ

第七條

一月二回各部ノ器械棚架ヲ掃除スベシ

第八條

諸器械ハ主任ノ者ニ非ザレバ出納スルヲ許サズ

第九條

教場ニ於テ諸器械ヲ使用スルトキハ主任者先ツ倉庫ヨリ預備室ニ出ダシ之レヲ點檢シテ破損ノ有無ヲ鑒査シ實用ニ適スルト認ムルノ後之レヲ教場ニ出スベシ

第十條

教場ニ於テ其用ヲ了リタル諸器械ハ預備室ニ於テ丁寧ニ汚穢及ヒ濕氣ヲ拭清シ主任者直チニ適當ノ部ニ藏ムベシ

第十一條

諸器械并該表ヲ製シ番號及ヒ明細書ヲ附スベシ

但器械破損等ノ事アルモ亦タ之レヲ記載スベシ

第十二條

每歲二回即チ暑中休業ノ始メ及ヒ年末ニハ其表目ニ照シテ諸器械ヲ點檢スベシ

第十三條

他ノ教場ニ於テ物理的器械ヲ借用セシトシテ乞フ者アルトキハ本場不用ノ時間ニ限リテ貸與スベシ

第十四條

諸器械ニ破損アルキハ主任者ハ速ニ器械師ニ命シ修覆セシメ可成教

授ノ用ヲ闕カザル様注意スベシ

第十五條

物理諸器械ハ物理學教場主任者之ヲ管理シ且ツ之ニ關スル一般ノ事件ハ總テ其責ニ任ズベシ

第四節 博物學教場

第一條

各生徒諸器械圖書及ヒ製造品等^{ソレバライト}ノ閱覽ヲ乞フキハ本教場内ニ於テ之ヲ示シ決シテ室外ニ携帯スルヲ許サズ

第二條

各生徒教授後圖書藥品ノ熟覽ヲ許スハ休業日ノ他毎日午後二時ヲ限リトス

第三條

凡テ教授時間ノ外ハ濫リニ教場ニ入ルヲ許サズ

第四條

各生徒誤テ諸器械等ヲ破毀スルハ類似品或ハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシム可シ

第五條

教員等假令ヒ其教授上ニ必用ナルモ常備ノ書器ヲ漫リニ帶出スルヲ許サズ

第六條

脊椎動物剥製ノ如キハ防虫劑ヲ施シ虫類ノ如キハ乾燥劑ヲ以テシ其他渾テ未製ノモノハ酒精ニ浸シ之ヲ貯蓄シ之ヲ綱目ニ倣ヒ其位置ヲ正フシ以テ教授上ニ便ナラジム

第七條

動植物藥品ノ如キハ之ヲ瓶中或ハ紙管ニ貯ヘ植物腊葉ノ如キハ厚キ

紙間ニ挿窄シ防虫劑ヲ施シ之ガ類別ヲ區畫シ自然綱目ニ從ヒ筆筒中ニ順置シ以テ教授上出入ニ簡便ナラシム

第八條

礦物ノ如キモ亦其綱目ニ順ヒ各自小筥ニ入レ之ヲ大筥中ニ裝飾シ以テ出入ニ便易ナラシム

第五節 製藥學教場

第一條

臨時需用ノ器械アルトキハ之ヲ器械主任者ヨリ借受シ使用了ラハ速ニ返付スベシ

第二條

器械主任者ノ承認ヲ得ズ教場及ヒ各室ニ備フル所ノ諸器械ヲ局員ヲリトモ漫リニ使用シ或ハ室外ニ持テ去ルヲ許サズ

第三條

器械庫内ニ出入スルハ該主任者ヲ除クノ外一切之ヲ許サス若シ已ム
ヲ得ザル事故アルキハ必ス其同行ヲ乞フベシ

第四條

生徒誤テ製煉所ノ諸器ヲ破毀スルコト數回ニ及ブトキハ相當ノ償金
ヲ課ス

但高價ノ器械ハ假令一回ニテモ償金ヲ課スルコトアルベシ

第五條

室中設置ノ化學天秤ハ伍ヲ分ツテ各箇ニ分賦シ他伍ニ屬スル天秤ヲ
使用スルヲ許サス尙之ヲ使用シ或ハ天秤又ハ其附屬品ヲ破損シ或ハ
天秤室ノ窓戸ヲ放開スル等ノモノハ毎回相當ノ償金ヲ課ス

第六條

顯微鏡ヲ破損スルモノハ該品相當ノ償金ヲ課シ「デツキガラス」オブゼ

クトガラス等ヲ破毀スルモノモ亦其價ヲ償ハシム

第七條

生徒藥品ヲ需要スルトキハ必ス之ヲ主任者ニ請フテ之ヲ受収スヘシ
渾テ預備室ニ備フル藥品ハ教員吏員タリトモ漫リニ使用スルヲ許サ
ズ

第八條

當用ノ藥品ハ凡ソ分量ヲ定メテ之ヲ請求シ若シ贏餘アラバ速ニ返付
スベシ怠ルモノアレバ相當ノ償金ヲ課ス

第九條

生徒藥品ヲ製煉スルキニ方ツテ始メ使用シタル藥物ノ分量ト月日ト
ヲ帳簿ニ記シ又製成シタル藥品ハ其分量ト月日トヲ帳簿ニ記シ之ヲ
適宜ノ瓶ニ納メテ主任者ニ渡スベシ

第六節 製藥分析室

第一條

分析室ハ毎日午前第八時ニ開キ午後第四時ニ閉ツ右定時ノ前後ニハ室内へ出入スルヲ許サズ

但時宜ニヨリ本條ノ時限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二條

生徒諸器械類ヲ借受スル者ハ每學期ノ始メニ於テ其品名員數ヲ詳記シ調印ノ上之ヲ受取リ每學期ノ終リニ此請取書ニ照ラジテ之ヲ返付スベシ

第三條

諸器械類毀損ノ節ハ品名員數ヲ破損簿ニ記シ調印ノ上代品ヲ請取ルベシ

但毀損シタル原品ヲ持參セザルモノニハ代品ヲ與フルコトナシ又交

付スベキ代品ナキトキハ其由ヲ破損簿ニ記シ返付ノ節ノ參照ニ供ス

第四條

白金及ヒ銀製ノ諸品並ニ瑪瑙乳鉢等高價ノ品紛失ノ節ハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシム試験管ハ一學期內ニ七本以上他ノ諸器ハ一學期內ニ三箇以上ヲ破損スルキハ右定數ヲ超ユル品ニ限リ盡ク其代價ヲ辨償セシム

第五條

室内ニ備ヘタル器械藥品ノ外臨時需用ノ品アルトキハ臨時器械藥品請取帳ニ品名員數姓名ヲ記シ調印ノ上之ヲ交付ス其品己ニ不用ニ屬スルカ或ハ贏餘アルトキハ直ニ之ヲ返付スベシ

第六條

他室ノ器械藥品等ヲ猥リニ分析室内ニ持參シ又ハ分析室内ノ器械藥

品等ヲ室外ニ出スヲ許サス

第七條

毎日退室ノ節若クハ聽講等ニ由リ久シク室外ニ留ル節ハ必ス試験机
抽匣ノ鍵鑰ヲ鎖シ一切火焰ヲ消滅スベシ

第八條

コロール及ビ硫化水素等ノ氣類ヲ發生シ又ハ酸類ヲ蒸散セシムル等
ノ術ハ一切之ヲ蒸發棚内若シクハ室外ニ於テ行フベシ

第九條

教師ノ授クル所ニ非サル物質ヲ分析スルヲ許サス

第十條

試験管等ノ諸器ハ毎日自カラ之ヲ洗滌シ每週一回必ズ自己ノ試験机
ヲ灑掃シ常ニ机上ノ清淨ナランヲ要ス

第十五章

生徒費用

第一節 通則

第一條

受業料ハ當分一學期六ヶ月金三圓トシ每學期ノ始メニ於テ一時ニ納
付セシム

但疾病ニ罹リ欠課スルモノ及ヒ事故アリテ退學スルモノハ既納ノ
受業料ヲ返付スルヲナシ

第二條

寄宿生徒ハ食餌薪炭油等一切自費タルヘシ

第二節 給費生規則

第一條

従前ノ貸費生徒中學才俊秀ニシテ體質強健ナルモノ貧困ニ由リ其修業ヲ遂クルコト能ハサルモノハ更ニ第壹號式ノ願書ヲ出サシメ文部省ニ開申シ授業上必用ノ物品圖書筆紙或ハ衣食等ノ費額ヲ給シ第二號式ノ證書ヲ出サシム
但其費額ハ一ヶ月金六圓以下トス

第二條

給費生成業ノ上ハ従前受クル所ノ貸費金并ニ明治八年十二月廿五日ヨリ同九年三月十一日マテ給附金及ヒ爾後ノ給費金額ヲ合算シテ一ヶ月金八圓以下ノ報謝受業料モ其ヲ納ムベシ
但一時或ハ四年以内ニ分賦シ月々ニ納付スル等ハ勝手タルベシ

第三條

給費金ハ生徒自ラ支消スルヲ得ルト雖モ時宜ニヨリ現品ヲ給シテ其代價ヲ引去ルコトアルベシ

第四條

給費生疾病ニ罹リ療養三ヶ月ヲ經テ尙ホ愈ヘサル者ハ給費ヲ止ム

第五條

給費生疾病ノ節藥餌等ノ入費ハ給費金ノ内ヲ以テ納附セシムト雖モ若シ不足スルモ其不足分ヲ更ニ給スルコトヲ許シ成業ノ後報謝金ト共ニ之ヲ納メシム

第六條

給費生疾病ニ罹リ不愈者或ハ死亡セシ者其他學業進歩セサルモノ等ハ皆給費ヲ止メ退學ヲ命スベシト雖モ其報謝金ヲ納付セシムルト否トハ事由ニ因テ之ヲ定ムベシ

但校則舍則及ヒ公罪ヲ犯シ退學ヲ命ズル者又ハ事故アリテ自ラ退學スル者ハ報謝金ヲ納附セシム

第七條

給費生若シ自費ノ目途ヲ得テ給費ヲ要セザルキハ第二條ニ照シ報謝金ヲ納付セシム

但給費生中若シ出仕雇等ヲ以テ教員醫員等ニ補セラレ、キハ當日ヨリ給費ヲ止メ報謝金ヲ納メシムルヲ第二條ニ準ス

第八條

給費生一等親ノ病變或ハ己ヲ得サル事件アリテ一時歸着若クハ下宿スル時ハ當日ヨリ給費ヲ止メ歸校ノ日ヨリ之ヲ給ス可シ
但冬夏休業中ノ歸省下宿ハ此限ニ非ス

第壹號願書式 用紙美濃紙

私儀當時何學何級ニテ修業罷在候處貧困ニシテ自費修業難出來候就テハ當何年何月ヨリ學資御給付相成度此段相願候也

籍 族

年 月 日

誰 印

何 年 何 月

父 母 或 證 人

誰 印

東 京 大 學 醫 學 部

御 中

第二號證書式 證券界紙

私儀貧困ニテ自費修業難出來候ニ付學資御給付相願候處一ヶ月何圓御給付相成候上ハ修業年間ハ勿論卒業ノ後御規則ノ通聊モ違背致間敷候依テ證書差出候也

年月日

籍族

何

誰印

何年何ヶ月

右之通相違無之候依テ與印致シ候也

父母或證人

籍族

何

誰印

宿所

東京大學醫學部

御中

第三節 一科專門生徒學資給與規則

第一條

預科卒業ノ生徒中一科專門修學ノ志アルモ貧困ニテ自ラ學資ヲ辯ス

ル能ハズシテ學力優等品行方正體質強健ナル者ニ限り第一號式ノ願書ヲ出サシメテ文部省ニ開申シ第二號式ノ證書ヲ取り受業上必用ノ物品衣食等ノ費額トシテ卒業迄月々金自四圓迄ヲ給スルコアルヘシ

第二條

生徒卒業ノ上都合ニ由リ奉事セシムベシ但給與ヲ受クル年數ヲ倍シテ奉事ノ年限トス假令ハ二年給與ヲ受クル尤奉事年限中ハ相當ノ給料ヲ與フベシ

第三條

醫學部專門學科ノ給與ヲ要スル課目

醫學 動物學

同 植物學

同 物理學

同 化學

以上預科卒業ノ後直チニ専門學科ニ入ル者トス

解剖學 組織學 比較解剖
生理學 (衛生學)

(病理學) (斷訟學)

眼科學

(產科婦人病)

(黴毒皮膚病)

(內科) (小兒病) (精神病)

(外科)

以上本科卒業ノ後一科專修ノ科トス

第四條

給與金ハ生徒自ラ支消スルモノト雖モ時宜ニ因リ現品ヲ給シテ其代價ヲ引去ルコアルベシ

第五條

給與生疾病ニ罹リ療養三ヶ月ヲ經テ尙ホ愈ヘサル者ハ給與ヲ止ム

第六條

給與生疾病ノ節藥餌等ノ入費ハ給與金ノ内ヲ以テ納付セシムト雖モ若シ不足スルモ其不足分ヲ更ニ給スルコトヲ許シ卒業ノ後奉事年限ニ加算スベシ

第七條

給與生疾病ニ罹リ愈ヘサル者或ハ學業進歩セサル者等ハ皆給與ヲ止ム

第八條

但報酬金ヲ納メシムルト否ラサルトハ事由ニ因テ之ヲ定ムベシ

給與生疾病其他止ヲ得サル事故アリテ自ラ退學ヲ願フモノ及ヒ校則舍則公罪等ヲ犯シ退學ヲ命スルモノハ己ニ給與セル金額ニ相當ノ金

百三十一

高ヲ報酬トシテ納メシム

第九條

給與生卒業ノ後事故アリテ奉事スル能ハザルモノハ己ニ受ル所ノ金額ニ相當ノ金高ヲ報酬トシテ一時ニ納メシムベシ

第十條

給與生一等親ノ病變或ハ己ヲ得サル事件アリテ一時歸省若クハ下宿スルキハ當日ヨリ給與ヲ止メ歸舍ノ日ヨリ之ヲ給スベシ
但冬夏休業中ノ歸省下宿ハ此限ニアラス

第壹號願書式 用紙美濃紙二通

私儀目今何科第何級ニテ修業罷在候處何學專門志願ニ有之自費修業難行届候就テハ營明治何年何月ヨリ學資御給付被成下度然ル上ハ在

學中ハ勿論成業ノ後御規則之通違背致問敷候此段御許容相願候也
年月日

籍 族

何 誰印

何年何ヶ月

父母或ハ證人

何 誰印

東京大學醫學部

御 中

第二號證書式 用紙證券界紙壹通

私儀何學專門修業罷在自費修業難行届ニ付今般願之通給費御許容相成月々金何圓御給附相成難有存候然ル上ハ卒業ノ後御規則ノ通一切違背致間敷候依テ證書差出候也

年月日

籍族

何

誰印

何年何ヶ月

右之通相違無之候依テ奥印致候也

父母或ハ證人

何

誰印

東京住所

東京大學醫學部

御中

第十六章

生徒心得

第壹節 醫學本科生徒

第一條

生徒ハ課業時限ノ五分前迄ニ教場ニ出席シ坐位ニ就キ教授ノ出席ヲ待テ教授教場ニ臨マハ敬禮ヲ表シ教授退出シテ後チ順整ニ席ヲ離ルベシ

第二條

生徒教場ニ出席スルニハ袴ヲ着スベシ不整ノ衣服ヲ着シ教場ニ入ルヲ禁ス

第三條

講義中假令疑義アルモ其席ニ於テ教授ニ質問スベカラス

但教授ノ好意ニ由リ講義終ルノ後質問ヲ許ス時ハ此限ニアラズ

第四條

各自ノ教場ヲ除ク外猥リニ他ノ教場ニ入ルヲ許サズ

第五條

教場ニ於テ教授又ハ介補日々生徒ノ出席ヲ調ヘ之ヲ勤惰簿ニ記載スルカ爲ニ各自ノ姓名ヲ點呼スルキハ直ニ之ニ應答スベシ

第六條

生徒病氣或ハ己ムヲ得サル事故アリテ欠課スル者ハ毎日教場ヲ開クノ前左ノ雛形ニ照準シ其事ヲ書シテ監事ヘ届出ベシ又病氣ニテ欠課三日以上ヲ超ル者ハ必ス主治醫ノ診斷書ヲ副ヘ保證人ヨリ届出ベシ又事故ニテ三日以上ニ及フ者ハ事實ヲ認メ保證人ヨリ届出ベシ若シ無届欠課二週ニ及フキハ退學ヲ命ス

但退學ヲ命セラレタル生徒悔悟シテ再入學ヲ請願スル者ハ預科生

新入學期 十一月ニ限リ試業ヲ遂ケ適當ノ學級ニ入ルヲ許可スベシ然レモ退學ヲ命セラレタルノ二回ニ及フ者ハ其請願ヲ許サズ

私儀

病氣ニ付 今日又 出校致シ兼候間此段及御届候也

何等本科生

年 月 日

何 誰印

東京大學醫學部

監事御中

三日以上欠課届書雛形

何等本科生

何 誰印

右者別紙診斷書ノ通り病氣ニ本日ヨリ向フ幾日間參校爲致兼候
間此段及御届候也

年 月 日

右 証 人

何 誰 印

東京大學醫學部

監事御中

病氣全快ノ節ハ届書ヲ出スニ及ハズ本人參校ノ上其趣ヲ監事へ口陳
スベシ

第七條

本部ノ家屋書籍器械ヲ汚シ又ハ損スルキハ相當ノ代價ヲ償ハシメ或
ハ相當ノ罰ヲ加フルコアルベシ

第八條

生徒若シ請願スル事件アルキハ其旨意ヲ美濃紙二通ニ記載シ監事へ
出スベシ

第九條

帽子傘等其他所持品ハ都テ取締ナキ場所ニ置クベカラズ

第十條

總テ火鉢煙草盆ノ備ヘナキ場所ニ於テ喫烟シ及教場内外ノ區別ナシ
戲談疾走スベカラズ

第十一條

生徒及證人轉住スルキハ其所ヲ明細ニ認メ速ニ届出ヘシ

第二節 醫學預科生徒

第一條

生徒ハ課業時限ノ五分前迄ニ教場ニ出席シ坐位ニ就キ教授ノ出席ヲ待テ教授教場ニ臨マハ必ス敬禮ヲ表シ教授退出シテ後テ順整ニ席ヲ離ルベシ

第二條

生徒教場ニ出席スルニハ袴ヲ着スベシ不整ノ衣服ヲ着シ教場ニ入ルヲ禁ス

第三條

講義中假令疑義アルモ其席ニ於テ教授ニ質問スベカラス但教授ノ好意ニ由テ講義終ルノ後質問ヲ許ス時ハ此限ニアラズ

第四條

各自ノ教場ヲ除クノ外猥リニ他ノ教場ニ入ルヲ許サス

第五條

教場ニ於テ教授又ハ介補日々生徒ノ出席ヲ調ヘ之ヲ勤惰簿ニ記載ス

ルカ爲ニ各自ノ姓名ヲ點呼スルキハ之ニ應答スベシ

第六條

生徒病氣或ハ己ムヲ得サル事故アリテ欠課スル者ハ毎日教場ヲ開クノ前左ノ離形ニ照準シ其事ヲ書シテ監事ヘ届出ベシ又病氣ニテ欠課三日以上ヲ起ル者ハ必ス主治醫ノ診斷書ヲ副ヘ保證人ヨリ届出ベシ又事故ニテ三日以上ニ及フ者ハ事實ヲ認メ保證人ヨリ届出ベシ若シ無届欠課二週ニ及フキハ退學ヲ命ス

但退學ヲ命セラレタル生徒悔悟シテ再入學ヲ請願スル者ハ預科生新入學期十一月ニ限り試業ヲ遂ケ適當ノ學級ニ入ルヲ許可スベシ尤モ退學ヲ命セラレタル二回ニ及フ者ハ其請願ヲ許サズ

何等預科生

何 誰

右者病氣ニ付今日又參校爲致兼候間此段及御届候也

年月日

右證人

何

誰印

東京大學醫學部

監事御中

病氣全快ノ節ハ届書ヲ出スニ及ハズ本人參校ノ上其趣ヲ監事ヘ口陳スベシ

第七條

本部ノ家屋書籍器械ヲ汚シ又ハ損スルキハ相當ノ代價ヲ償ハシメ或ハ相當ノ罰ヲ加フルコトアルベシ

第八條

生徒若シ請願スル事件アルキハ其旨ヲ美濃紙二通ニ記載シ監事ヘ出スベシ

第九條

帽子傘等其他所持品ハ都テ取締ナキ場所ニ置クベカラス

第十條

總テ火鉢煙草盆ノ備ヘナキ場所ニ於テ喫煙シ及教場内外ノ區別ナク戯談疾走スベカラス

第十一條

生徒及證人其住居ヲ轉スルキハ其所ヲ明細ニ認メ速ニ届出ベシ

第十二條

体操時間ニハ体操所ニ出テ体操ヲナスベシ瓦石ヲ抛テ花卉ヲ折リ或ハ庭園條線内ヘ入ルベカラス

第三節 別課醫學生徒

第一條

教場ノ出席ハ課業時限ノ凡五分前ニ於テシ決メテ時限ニ後レス坐位

ナ正シテ教授ノ出席ヲ待ツヘシ教授教場ニ臨マハ必ス禮節ヲ盡シ教授ノ退出ニ先チ自席ヲ離ルベカラズ

但急病ニ罹リ不得已退席スルキハ其趣ヲ教授ニ告グベシ

第二條

平服ヲ用フル者ハ必ス袴ヲ着スベシ不相當ノ衣服ヲ着シ教場ニ出ルヲ禁ス

第三條

本部ノ書籍器械ヲ墨汚毀傷セシキハ相當ノ代價ヲ償ハシムベシ

第四條

生徒若シ請願スル事件アルキハ其由ヲ美濃紙ニ通ニ記載シ監事ヘ出スヘシ

第五條

放課時間ハ体操所ニ出テ勉テ散歩体操ヲナスベシ瓦石ヲ抛チ花卉ヲ

折リ或ハ庭園條線内ヘ入ルベカラズ

第六條

講義中假令疑義アルモ其席ニ於テ教授ニ質問スベカラズ但教授ノ好意ニ由リ講義終ルノ後質問ヲ許スハ妨ゲナシ

第七條

各自ノ教場ヲ除ク外猥リニ他ノ教場ニ入ルヲ許サズ或ハ通學生徒ノ入舍生ニ要用アリテ寄宿舎ニ來ルモ其室内ニ入ルヲ許サズ必ス應接所ニ於テ面晤スベシ

第八條

生徒出席スルキハ必ス本部通用門面番所ニ備ヘ置ク所ノ名簿ニ捺印スベシ

第九條

帽子傘等其他所持品ハ都テ取締ナキ場所ニ置クベカラズ

第十條

總テ火鉢煙草盆等ノ備ヘナキ場所ニ於テ喫烟シ及ヒ教場内外ノ區別
ナク談疾走スベカラス

第十一條

生徒病氣等己ムヲ得サルノ事故アリテ欠課スルモノハ左ノ雛形ニ照
準シ其由ヲ届出ヘシ若シ届ケナク三週間以上ノ欠課ニ及フトキハ退
學セシモノト看做シ生徒ノ名籍ヲ削ルベシ
但三日以上欠席スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ出サシム

病氣ニ付今日又出校致シ兼候間此段及御届候也

私儀

年月日

第何期生

何

誰印

東京大學醫學部

監事御中

病氣全快ノ節ハ届書ヲ出スニ及ハス本人參校ノ上其趣ヲ監事ヘ口陳
スベシ

第十二條

生徒及ヒ證人其住居ヲ轉スル時ハ其所ヲ明細相認メ速ニ届出ベシ

第十七章

寄宿舎規則

第一條

寄宿舎ハ醫學本科及預科生ノ請願ニ由テ入舎ヲ許ス但舎則ヲ守リ監
事并ニ生徒取締ノ指揮ニ從フ可シ

第二條

監事ノ事務ヲ取扱フハ非常ヲ除クノ外午前第八時ヨリ午後第二時ヲ限リトス

第三條

各舎ノ生徒中輪番ヲ以テ週番ヲ置キ每週該舎ノ諸事ヲ管理スベシ

第四條

舎則ヲ犯ス者アルキハ其週番ノ者之ヲ監事ニ申出ベシ若シ故ラニ之ヲ隱蔽スル時ハ週番ノ者共其責ニ任ス可シ

第五條

生徒互ニ貨幣ヲ貸借スルコトヲ禁ス

第六條

舎中ニ於テ飲酒放歌高吟跳舞其他ノ勉強ヲ妨クルコトヲ禁ス

第七條

舎中ニ於テ小説稗史ヲ讀ミ或ハ無用ノ翫具ヲ弄スル等都テ風儀ヲ紊シ怠惰ニ流ル、コアルベカラス

第八條

在舎生徒ハ每期揭示スル時限表ヲ遵守スベシ

第九條

室内ハ清潔ヲ要スル爲ニ毎朝必ス寢具ヲ整頓シ室内ヲ掃除シ無用ノ衣服等ヲ亂撒ス可ラス

第十條

毎土曜日ハ必ス午後第四時迄ニ各室大掃除ヲ爲シ取締ノ検査ヲ受クヘシ

第十一條

生徒ノ私有品ニハ成ヘク各自ノ姓名等ヲ附記シ他人ノ物品ト混雜セサル様注意スヘシ

第十二條

室内ニ於テ妄ニ小使ヲ使役ス可ラス若シ要用アレハ自カラ其部屋ニ到リ其事ヲ委托スベシ又決シテ私用ノ爲ニ門外ノ使用ニ充ツベカラ

第十三條

食事ハ疾病ノ外必ス食堂ニ於テシ決シテ其時期ニ後ル可ラズ

第十四條

疾病ニ因テ欠席スルキハ課業時限前必ス其旨ヲ監事へ届ケ醫員ノ診察ヲ受ケ再ヒ其證ヲ監事へ出スベシ

但當人歩行ニ堪ヘサルトキハ同室ノ者本條ノ事ヲ代辨スベシ

第十五條

課業ノ時間ハ外出ス可ラス若シ已テ得ズシテ外出ナ乞フ者ハ證人ヨリ願書ヲ出シ監事ノ許可ヲ受ク可シ

第十六條

非常ノ時ニアラザレハ出入口ノ外猥リニ出入スベカラズ

第十七條

己ヲ得サル事故アリテ外泊セント欲スルモノハ本日午後二時迄ニ證人ノ證書ヲ以テ願出ツベシ若シ外出中急病或ハ他ノ事故アリテ歸舍ノ時限ニ後ル、トキハ必ス其故ヲ詳記セル證人ノ證書ヲ携へ歸リ翌日之ヲ監事ニ出スベシ

但重病ニ罹リ歸舍シ難キ節ハ速ニ監事へ届出テ翌朝猶歸舍スルト能ザルトニ拘ラズ醫員ノ診斷書ヲ添へ監事へ届ケベシ

第十八條

定例休日ハ午前第七時ヨリ午後第十時ニ至ルノ間外出ヲ許ス其他毎日課業後ヨリ午後第八時迄外出ヲ許ス

第十九條

外出ノ節ハ必ス鑑札ヲ門番ニ出シ歸舍ノ節之ヲ受取リ決シテ遺失ス可ラス

第二十條

暑中休暇中ハ生徒一般退舍シ開業三日前ニ歸舍スヘシ

第二十一條

父母ノ病變ニ由リ一時歸省若シクハ下宿ヲ願フ者ハ證人ヨリ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ願出ツ可シ三日以内ノ下宿ヲ願フ者ハ證人ノ證書ノミヲ以テ許可スベシト雖モ若シ三日以上ニ及フキハ下宿前必ス借受ノ書籍器械ヲ返納スベシ

第十八章

綜理教員等姓名

綜理 池田謙齋 東京府
綜理心得 石黒忠憲 新潟縣

教員

外科及眼科學	全	教授	ドクトル、ウイルヘルム、シユルツ獨逸
内科及婦人科	全		ドクトル、エルウイン、ベルツ全
化學及製藥學	全		ドクトル、アレキサンデル、ランガルト全
生理學	全		ドクトル、プロフエスソル、エルンスト、チーゲル全
解剖及組織學	全		ドクトル、ヨゼフ、ギスセ 全
獨逸及羅甸學	全		ドクトル、ルートルフ、ランゲ 全
數學及物理學	全		ドクトル、レナポルト、シエンデル全
博物學	全		ドクトル、ルードウヰヒ、ドムデルライン 全
獨逸學羅甸學地理學	全		ドクトル、アドルフ、グロート 全

獨逸學羅何學及美術	病 理 學	外科臨床講義	內科臨床講義	解 剖 學	外科臨床講義	外科論理	生 理 學	化學及製藥學	獨 逸 學	解 剖 學	內科臨床講義	內科醫員
全	全	全	全	全	全	全	全	助	全	全	全	全
全	授							教				
アントン、エウゲン、ゼレスニー、澳斯太利	三宅 秀	桐原 眞節	樫村 清徳	田口 和美	橋本 綱常	足立 寛	永松 東海	熊澤 善庵	川上 正光	今田 東	岡 玄	原田 豊
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府

外科臨床講義	產科學	藥物學	物理學	博物學	化學及製藥學	全	眼科臨床講義	生 理 學	解 剖 學	數 學	調劑學	概 論
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
宇野 朗	櫻井 郁次郎	印 東 玄 得	飯 盛 挺 造	松 原 新 之 助	下 山 順 一 郎	丹 波 敬 三	井 上 達 也	片 山 國 嘉	玉 越 興 平	菅 浪 愼 一	勝 山 忠 雄	吉 田 謙 次 郎
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士
靜岡	群馬	和歌山	長崎	島根	愛知	兵庫	高知	靜岡	愛媛	東 京	東 京	東 京
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	府	府	府

博 物 學
製 藥 學
製 藥 學 助 手
和 漢 學
獨 逸 學
物 理 學 助 手
和 漢 學
全
生 理 學 助 手

製 藥 士
練 木 喜 藏
舟 羽 藤 吉 郎
小 池 孫 六
大 石 秀 實
齋 藤 鐵 太 郎
龜 田 盛 之 助
前 田 秀 村
川 口 一 雄
浦 野 貫

東 京 府 民 府
平 崎 縣 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
長 崎 縣 民 府
長 崎 縣 民 府
京 都 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府

醫 員
附 屬 病 院 副 院 長
內 科 當 直 醫

醫 學 士
三 浦 義 純
田 澤 敬 興

東 京 府 民 府
平 崎 縣 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府

外 科 當 直 醫
眼 科 當 直 醫
外 科 當 直 醫
外 科 當 直 醫
眼 科 當 直 醫
附 屬 病 院 當 直 醫
生 徒 診 察 掛
內 科 當 直 醫
外 科 當 直 醫
附 屬 病 院 當 直 醫
附 屬 病 院 當 直 醫
附 屬 病 院 當 直 醫
附 屬 病 院 助 手

全 全 全 全 全
高 階 經 本
河 野 衢
野 並 魯 吉
半 井 英 輔
柳 俶
中 山 德 輝
高 須 松 一 郎
醫 學 士
小 林 廣
弘 田 長
難 波 一
小 西 功
桂 成
瀨 尾 元

京 都 府 民 府
熊 本 縣 民 府
高 知 縣 民 府
山 口 縣 民 府
山 口 縣 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
東 京 府 民 府
高 知 縣 民 府
平 崎 縣 民 府
高 知 縣 民 府
高 知 縣 民 府
高 知 縣 民 府
高 知 縣 民 府

外來診察掛

相馬久衛
宮澤環

新潟縣
長野縣
平民

百五十八

調劑掛
調劑員

草野元養

長崎縣

調劑掛

齋藤滿平

長崎縣

事務專任
事務掛

犬飼嚴磨

愛知縣

營繕兼會計掛

西郷元善

長野縣

監事
醫書編輯直掛
醫員兼

三輪光五郎

東野縣

會計掛

吉野永有

東京府

醫院器械掛兼
醫院器械掛

濱野吉長

東京府

支給兼生徒掛

石川正意

東京府

庶務掛

市川寬繁

東京府

副監事

池永厚

東京府

營繕掛

酒井正身

愛知縣

會計掛

前田啓助

東京府

附屬病院事務掛

上田秀造

長野縣

醫院器械掛

大西秀春

東京府

典籍掛

佐藤精一郎

山形縣

生徒兼支給掛

辰己重信

東京府

典籍掛

黒子養浩

東京府

庶務掛	石原助安	東京府
監事書記	堤新造	東京府
全	早野信忠	東京府
附屬病院事務掛	砂川明	埼玉縣
醫院事務掛	下山惣吉郎	東京府
會計掛	篠崎房利	東京府

入舍生徒取締	三人
門番	九人
小使取締	二人

第十九章 生徒姓名

舊醫學一等本科生

三浦守治	福島	井上虎三	千葉
中濱東一郎	高知	高橋順太郎	石川
前田常三郎	長崎	小池正直	山形
熊谷幸之輔	秋田	森林太郎	東京
甲野柴	新潟	伊部彝	千葉
江口襄	栃木	緒方収二郎	東京
長町耕平	愛媛	新宮涼亭	京都
飯田信順	千葉	猪原吉郎	静岡
神保文輔	千葉	谷口謙	東京
片山芳林	長野	山形伸藝	石川
島田完吾	長崎	賀古鶴所	千葉
及川良吾	岩手	山縣直吉	山口

但課程ハ卒業リタルモ未ダ卒業試問ヲ經サルモノ

高木文種 長崎
鹿島武雄 東京

野川二郎 岐阜
高橋俊太郎 群馬

醫學一等本科生

猪子止戈之助 兵庫
瀨川癸卯太郎 東京
柴田勝央 石川
青山胤通 岐阜
吉益政清 石川
佐藤又造 栃木
太田彌太郎 東京
西郷吉義 長野
田代正 石川

古川榮 長崎
佐藤三吉 岐阜
武島重丹 山口
芳村晋 岡山
齋藤仙也 京都
熊谷茂樹 山口
富永伴五郎 千葉
小倉開治 石川
柳竹次 山口

醫學二等本科生

山根正次 山口
小柴平治 東京
遠藤洋 静岡
吉田興三 京都

朝川順三 静岡
神中寅之助 和歌山
戸塚卷藏 静岡
横田貫一 滋賀

大谷周庵 東京
池田陽一 長崎
中島孝次郎 熊本
川原邦太郎 長崎
木村孝藏 石川
隈川宗雄 東京
黒柳精一郎 石川

河本重次郎 兵庫
齋藤為信 高知
山根文策 山口
陣内主一 長崎
中山專太郎 大坂
鈴木規矩治 群馬
佐々木曠 石川

鶴崎平三郎	磯 藤	緒方太郎	山脇登彌太	千原春甫	劉 小一郎	內田仙太郎	高橋勝三郎	松崎 廉	山崎兵四郎	木島強平	淺山郁次郎	岡 文造	村田謙太郎	淺田 決	山本次郎平	川侯四男也	眞部於菟也	北里柴三郎	南 二郎	浦島堅吉	藤井善衍	渡邊 泰	宮下俊吉	荻生祿藏	渡邊尹義	本多忠夫
長崎	杵木	大坂	石川	島根	京都	高知	愛媛	兵庫	石川	長崎	東京	群馬	福嶋	三重	埼玉	栃木	大坂	熊本	福島	長崎	千葉	東京	東京	静岡	福嶋	栃木

醫學三等本科生

佐野 譽	栗本東明	長谷川寬治	棟方 隆	堤 宗卿	內田貴泰	柏村貞一	槽林國三	坪井次郎	博多卓爾	天谷千松	馬杉則知	鎌田滿太郎	井上平造	澤邊保雄	江馬春次	醫學四等本科生	山口	長崎	東京	東京	東京	東京	東京	京都	京都	京都	京都
------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	---------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

醫學四等本科生